

HP ROMベース セットアップ ユーティリティ ユーザ ガイド



製品番号 306105-193
2003年3月（第3版）

© 2003 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

Microsoft®およびWindows®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Intel®は、米国Intel Corporationの登録商標です。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。本書の内容は、そのままの状態を提供されるもので、いかなる保証も含みません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品に対する保証については、当該製品に付属の限定保証書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。

本書で取り扱っているコンピュータソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HPから使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211および12.212に従って、商業用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェア資料、および商業用製品の技術データは、ベンダ標準の商業用ライセンスのもとで米国政府に使用許諾が付与されます。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

HP ROMベース セットアップ ユーティリティ ユーザ ガイド

2003年3月（第3版）

製品番号 306105-193

目次

このガイドについて

対象読者	ix
安全に使用していただくために	ix
装置の記号	ix
ラックに関する注意	xi
本文中の記号	xi
参考資料	xii
HPのWebサイト	xii

第1章

はじめに

概要	1-1
RBSUの実行	1-1

第2章

RBSUのメニュー

[システム オプション]	2-4
[OSの選択]	2-5
[シリアル番号]	2-6
[内蔵COMポートA]	2-7
[内蔵COMポートB]	2-8
[内蔵LPTポート]	2-9
[内蔵ディスケット コントローラ]	2-9

[NUMLOCK電源投入時ステータス]	2-10
[内蔵NICポートPXEサポート]	2-10
[ディスケット書込み制御]	2-10
[ディスケット ブート制御]	2-10
[アドバンスド メモリ保護]	2-11
[PCIデバイス]	2-13
[標準ブート順序 (IPL)]	2-14
[コントローラのブート順]	2-15
[日付と時刻]	2-16
[自動サーバ復旧]	2-17
[ASRステータス]	2-17
[ASRタイムアウト]	2-18
[高温シャットダウン]	2-19
[サーバパスワード]	2-19
[電源投入時パスワードの設定]	2-20
[管理者パスワードの設定]	2-20
[ネットワーク サーバ モード]	2-20
[クイックロック]	2-21
[サーバの資産タグ&IMDテキスト]	2-22
[サーバ設定情報テキスト]	2-23
[システム管理者情報の設定]	2-24
[保守サービス連絡先の設定]	2-25
[IMDカスタム テキストの設定]	2-26
[アドバンスド オプション]	2-27
[MPSテーブル モード]	2-28
[ホットプラグ リソース]	2-29
[POSTスピードアップ]	2-29
[POST F1 プロンプト]	2-30
[リダンダントROMの選択]	2-31
[不揮発性メモリの削除]	2-32
[CPU修復済みに設定]	2-33
[ウェイク オンLAN]	2-34
[IDE EDD 3.0]	2-35
[NMIデバッグ ボタン]	2-35
[カスタムPOSTメッセージ]	2-36
[プロセッサ ハイパー スレディング]	2-37
[セカンダリIDEチャンネル サポート]	2-38
[BIOSシリアル コンソール/EMSサポート]	2-39

[ユーティリティの言語]	2-40
--------------------	------

第3章

ROMベースの拡張機能

内蔵のサーバ セットアップ	3-2
セットアップ ユーティリティ	3-3
仮想フロッピー ディスク	3-4
システム情報の参照 (Inspect) ユーティリティ	3-5
診断ユーティリティ	3-6
自動コンフィギュレーション プロセス	3-10
起動オプション	3-12
POSTエラーが発生した場合の起動オプション	3-13
オペレーティング システムのインストール	3-13

第4章

コマンドライン インタフェース

デュアル モードROMベース ユーティリティ	4-1
CLIモードの選択	4-2
RBSU CLIコマンド	4-4
システム情報の参照 (Inspect) のCLIコマンド	4-7
システム メンテナンス用CLIコマンド	4-8
コマンド バッファリング サポート	4-9
他のCLIサポート	4-9

付録A

RBSUによるコンフィギュレーション手順

はじめに	A-1
手動コンフィギュレーションの手順	A-2
スクリプトによるコンフィギュレーション手順	A-4
Configuration Replicationユーティリティ	A-4
Array Configuration Replicationユーティリティ	A-4

索引

図

図1-1: 32ビット サーバでRBSUを終了する	1-2
図1-2: 64ビット サーバでRBSUを起動する	1-3

図2-1: RBSUのメイン メニュー	2-1
図2-2: BIOSシリアル コンソールを介してCLIを使用したRBSU画面	2-3
図2-3: [システム オプション]メニュー	2-4
図2-4: [OSの選択]メニュー オプション	2-5
図2-5: [シリアル番号]メニュー オプション	2-6
図2-6: [内蔵COMポートA]メニュー オプション	2-7
図2-7: [内蔵COMポートB]メニュー オプション	2-8
図2-8: [内蔵LPTポート]メニュー オプション	2-9
図2-9: [アドバンスド メモリ保護]メニュー オプション	2-11
図2-10: [PCIデバイス]メニュー オプション	2-13
図2-11: [標準ブート順序 (IPL)]オプション	2-14
図2-12: [コントローラのブート順]オプション	2-15
図2-13: [日付と時刻]オプション	2-16
図2-14: [自動サーバ復旧]メニュー	2-17
図2-15: [ASRタイムアウト]オプション	2-18
図2-16: [サーバパスワード]メニュー	2-19
図2-17: [サーバの資産タグ&IMDテキスト]メニュー	2-22
図2-18: [サーバ設定情報テキスト]メニュー オプション	2-23
図2-19: [システム管理者情報の設定]メニュー オプション	2-24
図2-20: [保守サービス連絡先の設定]メニュー オプション	2-25
図2-21: [IMDカスタム テキストの設定]メニュー オプション	2-26
図2-22: [アドバンスド オプション]メニュー	2-27
図2-23: [MPSテーブル モード]オプション	2-28
図2-24: [ホットプラグ リソース]オプション	2-29
図2-25: [リダンダントROMの選択]オプション	2-31
図2-26: [不揮発性メモリの削除]オプション	2-32
図2-27: [CPU修復済みに設定]オプション	2-33
図2-28: [ウェイク オンLAN]オプション	2-34
図2-29: [カスタムPOSTメッセージ]オプション	2-36
図2-30: [プロセッサ ハイパー スレディング]オプション	2-37
図2-31: [セカンダリIDEチャンネル サポート]オプション	2-38
図2-32: ANSIモードでのBIOSシリアル コンソールのメイン メニュー	2-39
図2-33: [ユーティリティの言語]オプション	2-40
図3-1: [System Maintenance Menu]	3-2
図3-2: [仮想フロッピー ディスク]オプション	3-4
図3-3: システム情報の参照 (Inspect) ユーティリティのメニュー	3-5
図3-4: 診断ユーティリティのメニュー	3-6
図3-5: メモリ診断テスト	3-7

図3-6: CPU診断テスト	3-8
図3-7: 起動ディスク診断テスト	3-9
図3-8: 自動コンフィギュレーション画面	3-11
図3-9: 起動オプション画面	3-12
図3-10: POSTエラーが発生した後の起動オプション画面	3-13
図4-1: BIOSインタフェース モードの選択画面	4-3
図A-1: 手動コンフィギュレーションの手順	A-3
図A-2: スクリプトによるコンフィギュレーション手順	A-5

このガイドについて

このガイドでは、ROMベース セットアップ ユーティリティ (RBSU) のインストール手順および操作手順について説明します。

対象読者

このガイドは、サーバのインストール、管理、トラブルシューティングの担当者を対象とし、コンピュータ機器の保守の資格があり、高電圧製品の危険性について理解していることを前提としています。

安全に使用していただくために

サーバに同梱の『安全に使用していただくために』をよく読んでから、製品のインストールを開始してください。

装置の記号

安全上の注意が必要な装置の各部には、以下の記号が表示されています。



警告: 以下の記号と組み合わせて使用され、危険があることを示します。警告事項に従わないと、けがをする場合があります。詳しくは、ご使用のマニュアルを参照してください。



装置に高電圧が発生する回路があることや、装置の表面または内部部品に触れると感電の危険があることを示します。修理はすべて、資格のある担当者に依頼してください。

警告: 感電を防止するために、このカバーを開けないようにしてください。メンテナンス、アップグレード、および修理はすべて、資格のある担当者に依頼してください。



警告: 装置の表面または内部部品に触れると感電の危険があることを示します。カバー内には、ユーザや使用現場の担当者が修理できる部品は入っていません。カバーは、絶対に開けないで下さい。

警告: 感電を防止するために、カバーを開けないようにしてください。



この記号が貼付されたRJ-45ソケットはネットワーク インタフェース接続を示します。

警告: 感電、火災または装置の損傷を防止するために、電話または電気通信用のコネクタをこのソケットに接続しないようにしてください。



装置の表面または内部部品の温度が非常に高くなる可能性があることを示します。この表面に手を触れるとやけどをする場合があります。

警告: 表面が熱くなっているため、やけどをしないように、システムの内部部品が十分に冷めてから手を触れてください。



電源やシステムにこれらの記号が付いている場合、装置の電源が複数あることを示します。

警告: 感電しないように、電源コードをすべて抜き取ってシステムの電源を完全に切ってください。



重量 (kg)
重量 (lb)

製品や機械にこの記号が付いている場合、1人で安全に取り扱うことができる重量を超えていることを示します。

警告: けがや装置の損傷を防ぐために、ご使用の地域で定められた重量のある装置の安全な取り扱いに関する規定に従ってください。

ラックに関する注意



警告: けがや装置の損傷を防止するために、次の点に注意してください。

- 水平脚を床まで伸ばしてください。
- ラックの全重量が水平脚にかかるようにしてください。
- 1つのラックだけを設置する場合は、ラックに固定脚を取り付けてください。
- 複数のラックを設置する場合は、ラックを連結してください。
- コンポーネントは一度に1つずつ引き出してください。一度に複数のコンポーネントを引き出すと、ラックが不安定になる場合があります。

本文中の記号

本文中の以下の記号の意味を示します。



警告: その指示に従わないと、人体への傷害や生命の危険を引き起こす恐れがある警告事項を表します。



注意: その指示に従わないと、装置の損傷やデータの損失を引き起こす恐れがある注意事項を表します。

重要: 概念を説明するため、またはタスクを完了するための重要な情報を示します。

注: 本文の重要なポイントを強調または補足する追加情報を示します。

参考資料

このガイドで説明する項目について詳しくは、『HP BIOSシリアル コンソール ユーザ ガイド』、またはサーバの『セットアップ/インストール ガイド』を参照してください。

HPのWebサイト

最新のドライバやフラッシュROMに関する製品情報については、HPのWebサイト <http://www.hp.com/jp/>にアクセスしてください。

概要

HPのGeneration 2以降のProLiantサーバでは、システムROMにコンフィギュレーションユーティリティが組み込まれています。HP ROMベースセットアップユーティリティ (RBSU) と呼ばれるこのコンフィギュレーションユーティリティは、起動シーケンス中に**F9**キーを押すと開始されます。システムパラメータの設定は、システムコンフィギュレーションユーティリティ (従来のProLiantサーバでは**F10**キーを押すと起動) ではなく、必ず、RBSUで行ってください。

RBSUは、マシン固有で、サーバの種類ごとにカスタマイズされています。RBSUは、次のような広範囲のコンフィギュレーション作業を実行します。

- システム情報の表示
- オペレーティングシステム (OS) の選択
- システムデバイスとインストールされたオプションの設定
- プライマリブートコントローラを選択

RBSUの実行

32ビットサーバの場合

1. RBSUを実行してコンフィギュレーション設定を変更するには、サーバの起動プロセスでプロンプトが表示されたときに、**F9**キーを押します。
2. 必要に応じてコンフィギュレーション設定を変更します。

3. メイン メニューで、**Esc**キーを押してRBSUを終了します。コンフィギュレーション設定の変更を決定するためにRBSUを終了するときは、システムを再起動しなければなりません。
終了の確認が表示され、参照用に現在のブート コントローラも表示されます。

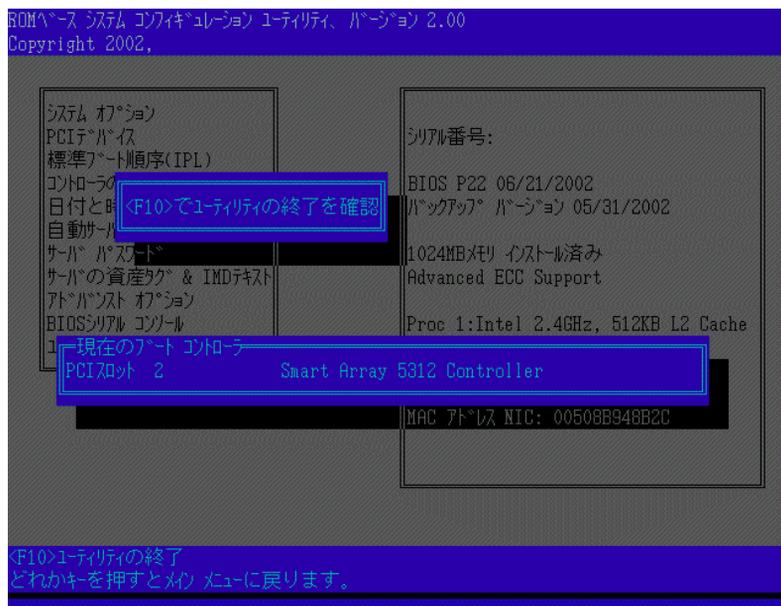


図1-1: 32ビット サーバでRBSUを終了する

4. RBSUの終了を確認するには、**F10**キーを押します。
サーバは、新しいコンフィギュレーション設定を使用して再起動します。

64ビット サーバの場合

1. RBSUを実行してコンフィギュレーション設定を変更するには、[Boot]メニューから[System Maintenance]を選択します。
2. [ROM-Based Setup Utility]を選択します。
3. 必要に応じてコンフィギュレーション設定を変更します。
4. **Esc**キーを押してRBSUを終了します。システムの再起動を必要とする変更を行った場合、システムの再起動が必要なことを示すダイアログボックスが表示されます。
5. サーバを再起動します。

サーバは、新しいコンフィギュレーション設定を使用して起動します。

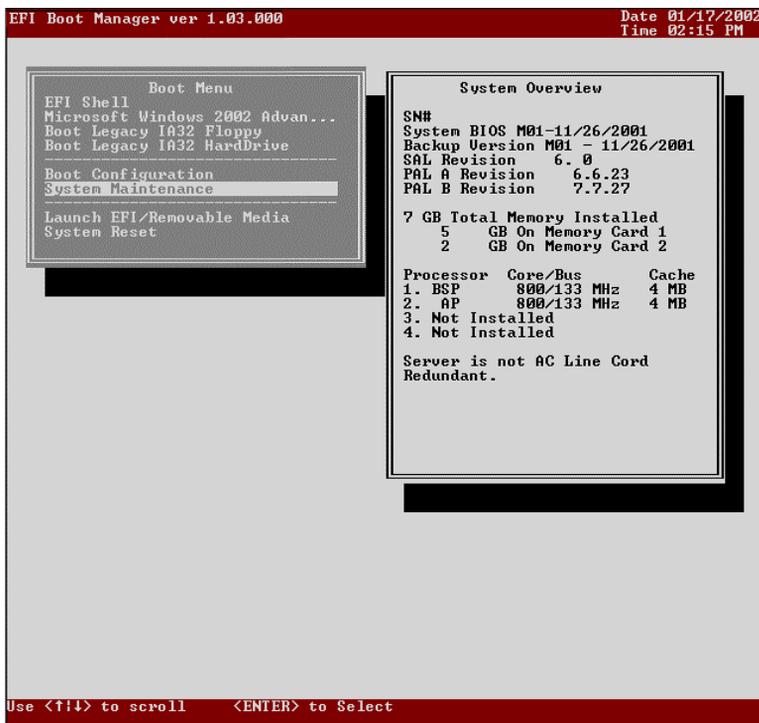


図1-2: 64ビット サーバでRBSUを起動する

RBSUのメニュー

RBSUを起動すると、RBSUのメニューが表示されます。

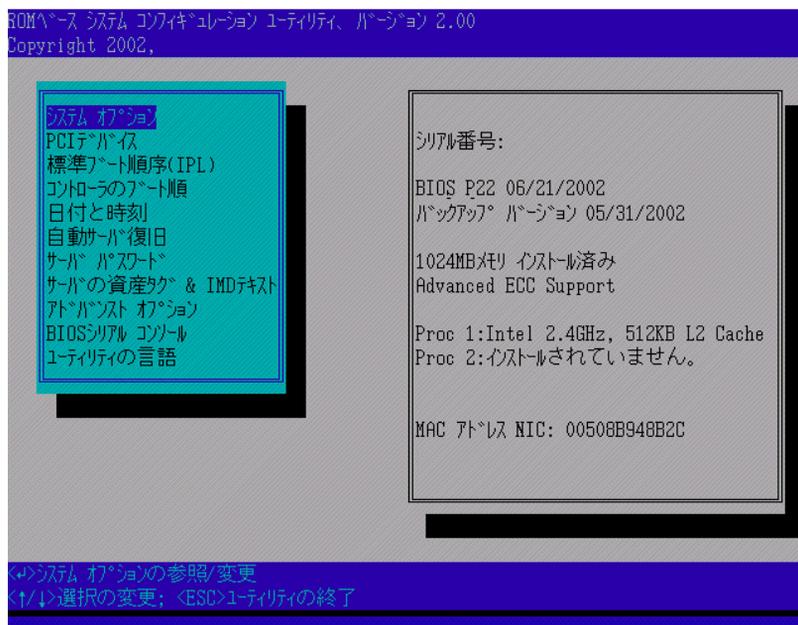


図2-1: RBSUのメイン メニュー

画面の左側に表示されるこのメニューによって、表示または変更するコンフィギュレーション設定を選択できます。以下に、選択項目を示します。

- [システム オプション]
- [PCIデバイス]
- [標準ブート順序 (IPL)] (32ビット サーバにだけ適用)

- [コントローラのブート順]
- [日付と時刻]
- [自動サーバ復旧]
- [サーバパスワード]
- [サーバ資産タグ&IMDテキスト] (IMDテキストは64ビットサーバにだけ適用)
- [アドバンスト オプション]
- [BIOSシリアル コンソール] (32ビットサーバにだけ適用)
- [ユーティリティの言語]

以下に、各オプションの詳細について説明します。

画面の右側のウィンドウには、サーバの基本情報が表示されます。表示される情報は、サーバのモデル、シリアル番号、BIOSのバージョン、バックアップBIOSのバージョン、インストールされているメモリ、インストールされているプロセッサなどです。

注: HP ProLiant DL760サーバの場合だけ、シリアル番号の次にサービス番号が表示されます。

サブメニュー オプションのいずれかを強調表示してF1キーを押すと、その機能の説明が表示されます。

コマンド ライン インタフェース (CLI) を使用し、BIOSシリアル コンソールを使用して設定された新しい一部のサーバは、図2-2のようなコマンド プロンプト画面を表示します。

```
ROM-Based Setup Utility, Version 2.00
Copyright 2002 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

Type HELP to display a list of valid commands.
HELP [<command>|<TREE>] displays detailed information about a given command
or lists a given TREE of commands.

rbsu> █
```

図2-2: BIOSシリアル コンソールを介してCLIを使用したRBSU画面

RBSUのCLIモードは、メニューベースのモードと同じ機能を提供するコマンド プロンプト インタフェースです。CLIについて詳しくは、第4章の「コマンド ライン インタフェース」を参照してください。

[システム オプション]

[システム オプション]メニューには、サーバの基本I/Oを設定したりOSを指定したりするためのオプションが用意されています。

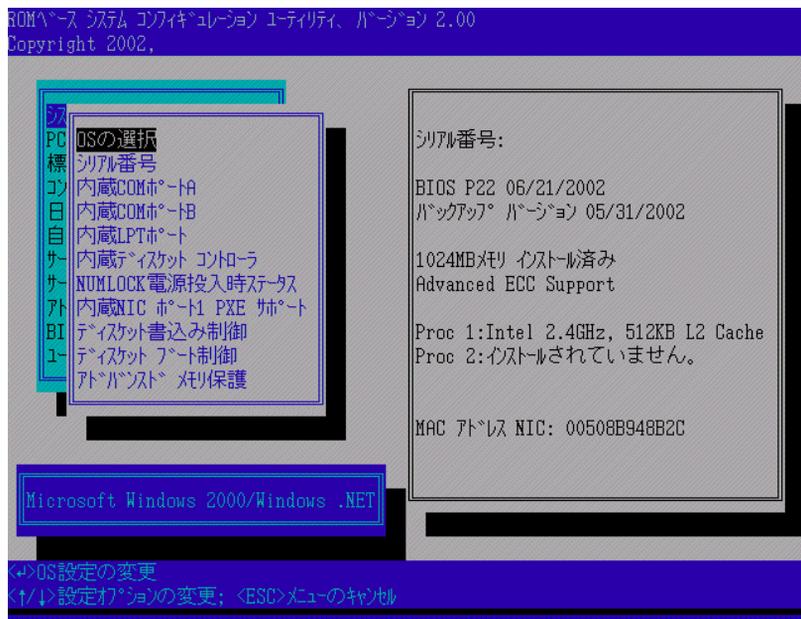


図2-3: [システム オプション]メニュー

各システム オプションを以下に示します。

- [OSの選択]
- [シリアル番号]
- [内蔵COMポートA] (該当する場合)
- [内蔵COMポートB] (該当する場合)
- [内蔵LPTポート]
- [内蔵ディスクетト コントローラ]
- [NUMLOCK電源投入時ステータス]
- [内蔵NICポートPXEサポート] (32ビットサーバにだけ適用)
- [ディスクетト書込み制御]
- [ディスクетトブート制御]

- [アドバンスドメモリ保護]

以下に、各オプションの詳細について説明します。

[OSの選択]

[OSの選択]オプションを使用して、サーバのプライマリOSを選択できます。ご使用のサーバでサポートされているOSのリストが表示され、ROMのデフォルト設定はMicrosoft® Windows® 2000になっています（サーバがサポートする場合）。サーバのデフォルトのマルチ プロセッサ（MP）設定およびPCIホットプラグ予約設定は、選択したOSに基づいて自動的に設定されます。

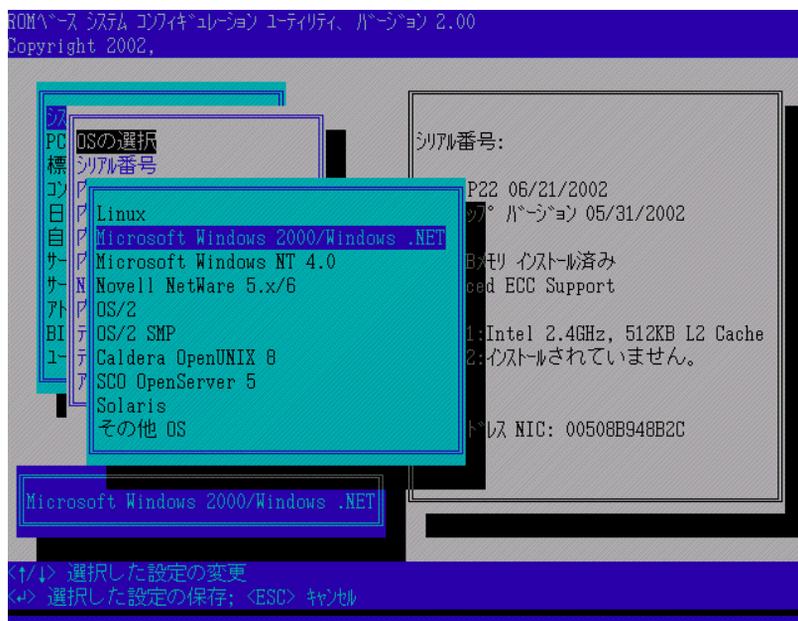


図2-4: [OSの選択]メニュー オプション

[シリアル番号]

[シリアル番号]オプションを使用すると、シリアル番号を変更できます。この番号は変更しないことをおすすめします。

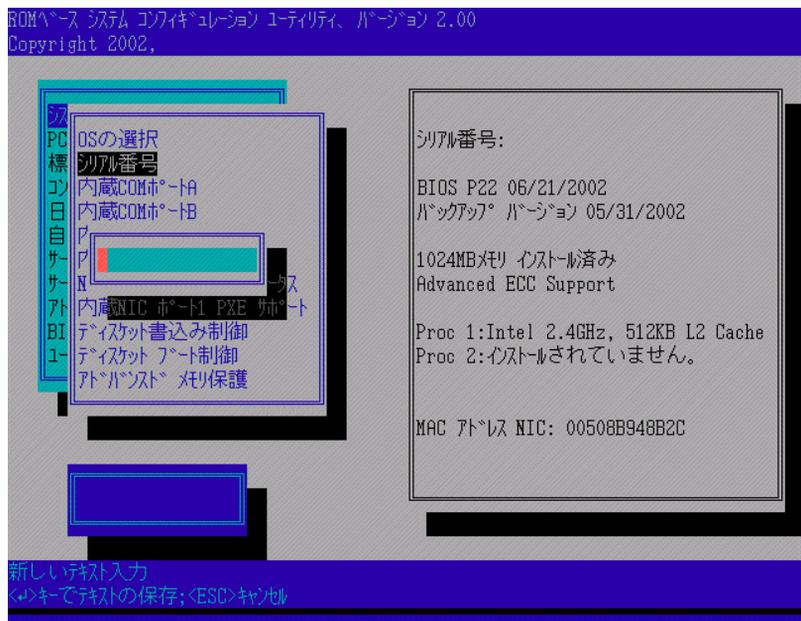


図2-5: [シリアル番号]メニュー オプション

このメニュー オプションを選択すると、次の警告が表示されます。

警告! 警告! 警告! シリアル番号は、工場出荷時に設定されています。変更すべきではありません。このオプションは、資格のあるサービス担当者へのみ許可されます。この値は、必ず本体のシリアル番号ラベルと一致させてください。

[内蔵COMポートA]

[内蔵COMポートA]オプションは、内蔵シリアルポートAのコンフィギュレーションを設定します。設定には、アドレスとIRQがあります。このオプションを使用して、ポートを無効にすることもできます。

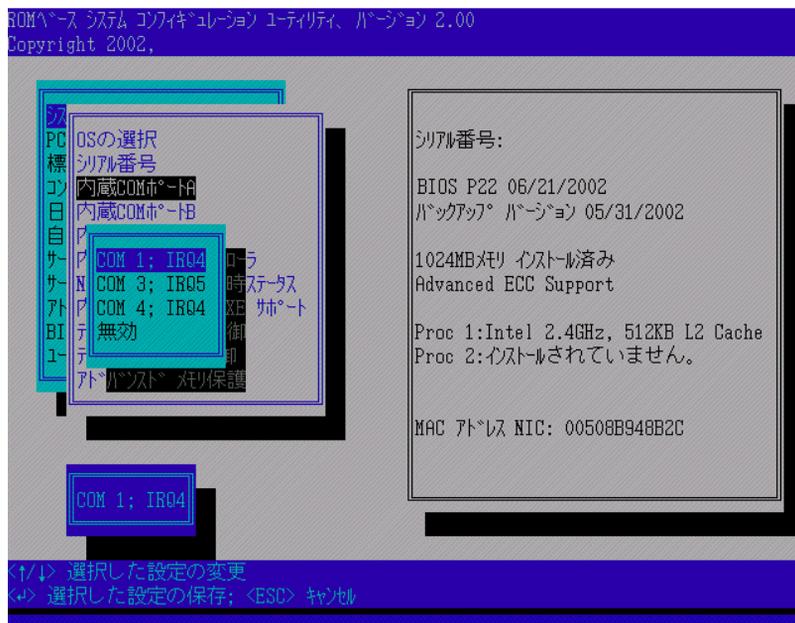


図2-6: [内蔵COMポートA]メニュー オプション

[内蔵COMポートB]

[内蔵COMポートB]オプションは、内蔵シリアルポートBのコンフィギュレーションを設定します。設定には、アドレスとIRQがあります。このオプションを使用して、ポートを無効にすることもできます。

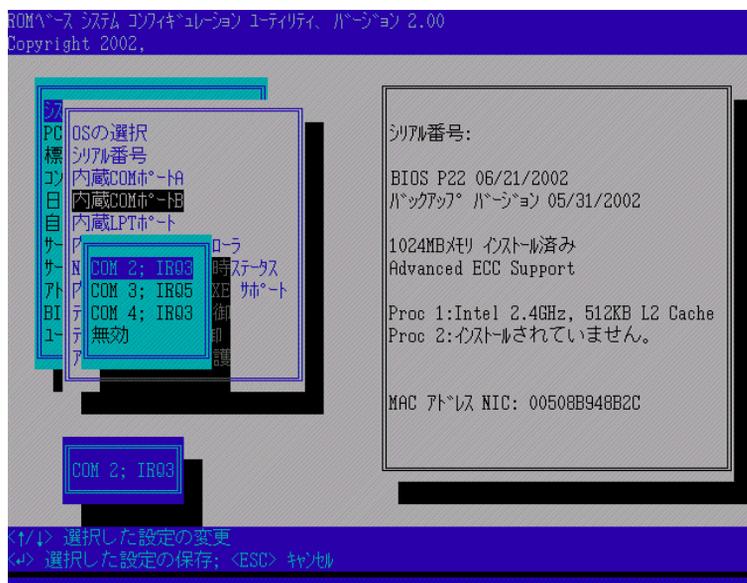


図2-7: [内蔵COMポートB]メニュー オプション

[内蔵LPTポート]

[内蔵LPTポート]オプションは、内蔵シリアルLPTポートのコンフィギュレーションを設定します。設定には、アドレスとIRQがあります。このオプションを使用して、ポートを無効にすることもできます。

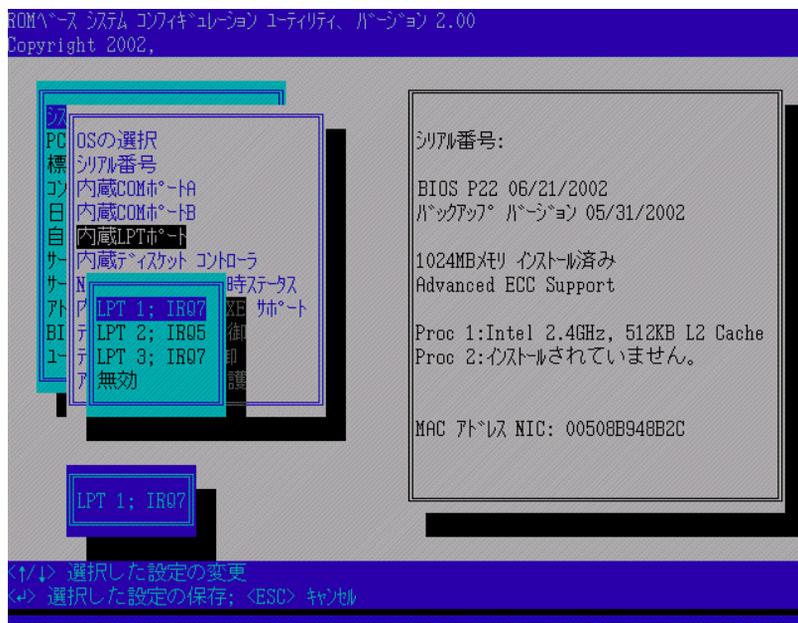


図2-8: [内蔵LPTポート]メニュー オプション

[内蔵ディスク コントローラ]

注: 1.44MBディスクは64ビット サーバでデータを読み出すことができますが、サポートはされていません。

[内蔵ディスク コントローラ]オプションは単純な切り替え設定で、ディスク ドライブを有効または無効にします。このオプションが無効になっていると、ディスク ドライブのデータを読み出したたり、ドライブにデータを書き込んだりすることはできません。したがって、[内蔵ディスク コントローラ]が無効になっていると、[ディスク書き込み制御]、[ディスク ブート制御]、および[IPLデバイスのブート順]オプションは、機能しません。

[NUMLOCK電源投入時ステータス]

[NUMLOCK電源投入時ステータス]オプションは単純な切り替え設定で、NUMLOCKキーの電源投入時の状態をオンまたはオフにします。NUMLOCKキーを有効にすると、マシンに電源を投入する際に、NUMLOCKキーが有効になります。

[内蔵NICポートPXEサポート]

重要: [内蔵NICポートPXEサポート]オプションを使用できるのは、32ビットサーバだけです。

[内蔵NICポートPXEサポート]オプションは、PXEサポートを有効にします。このオプションは単純な切り替え設定で、これによってサーバは、ネットワーク経由で（内蔵NICのみ）ブートイメージを持つPXEサーバに接続して、起動することができます。この設定はデフォルトでは有効になっているので、IPL（Initial Program Load）リストにNICポートが表示されます。PXEテクノロジーの詳細については、HPの下記のFTPサイトにあるpdfファイルを参照してください。

ftp://ftp.compaq.com/pub/products/servers/management/pxe_wp.pdf

[ディスクett書込み制御]

重要: [ディスクett書込み制御]オプションを使用できるのは、32ビットサーバだけです。

[ディスクett書込み制御]オプションは単純な切り替え設定で、ディスクettドライブの書き込み制御を設定します。選択できる設定オプションは、[リード/ライト]または[リード オンリー]のどちらかです。[リード/ライト]を選択した場合、サーバはディスクettドライブのデータの読み取り/書き込みを行うことができます。

[ディスクett ブート制御]

重要: 64ビットサーバは、レガシーIA32ディスクettからだけブート可能です。このディスクettは、[ブートコンフィギュレーション]メニューからアクセスできます。

[ディスクett ブート制御]オプションは単純な切り替え設定で、ディスクettドライブを起動デバイスとして使用可能にすることができます。このオプションを無効にすると、サーバをディスクettドライブから起動することはできません。このコンフィギュレーション設定は、安全のための機能として使用されます。

[アドバンスド メモリ保護]

重要: [アドバンスド メモリ保護] オプションを使用できるのは、一部の32ビット サーバだけです。

[アドバンスド メモリ保護] オプションは、ECC (Error Checking and Correcting) よりも高度なメモリ保護機能を提供します。

[アドバンスド メモリ保護]の詳細については、HPの下記のFTPサイトにあるpdfファイルを参照してください。

ftp://ftp.compaq.com/pub/products/servers/management/pxe_wp.pdf

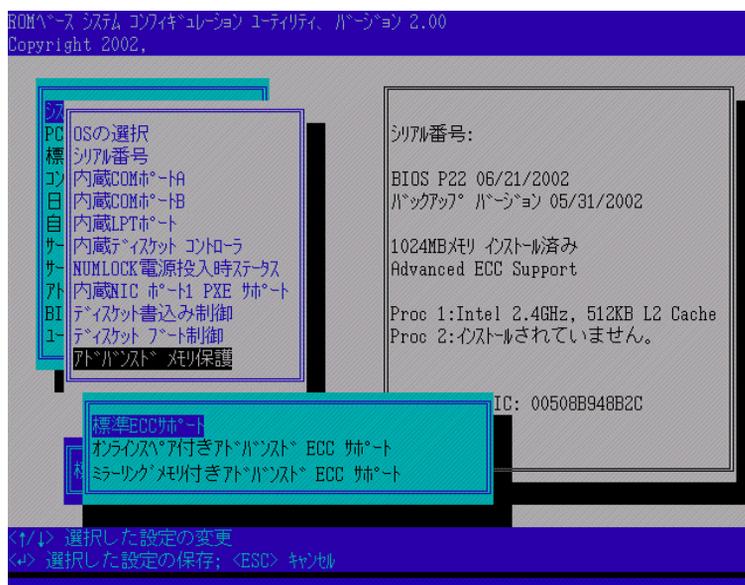


図2-9: [アドバンスド メモリ保護]メニュー オプション

[標準ECCサポート] (最大メモリ容量) 設定は、追加の回復機能を無効にして、OSに最大のメモリ容量を提供します。

[オンライン スペア付きアドバンスドECCサポート]設定は、スペア モジュールのグループを1つ必要とします。このオプションを選択すると、システムの稼動中に劣化したモジュールが自動的にフェールオーバーされます。

[シングルカード ミラーリング メモリ付きアドバンスドECCサポート]オプションは、モジュール障害に対して1つのメモリ ボードでシステムを保護します。DIMMバンクAとBが、同じメモリ ボード上のDIMMバンクCとDによってミラーリングされます。シングルボード ミラー メモリは、デュアルボード ミラー メモリとよく似ていますが、障害のあるメモリ ボードをシステムの稼動中に交換することはできません。

ミラーリングされたDIMMペアは、シングルボード ミラー メモリまたはデュアルボード ミラー メモリを選択できるように同じサイズでなければなりません。異なるサイズのDIMMを2枚1組にすると、次の警告が表示されます。

Current memory configuration does not support Online Spare.

[デュアルカード ミラーリング メモリ付きアドバンスドECCサポート]設定は、メモリ モジュールに障害が発生した場合にシステムを保護します。一方のボードのメモリがもう一方のボードのデータをミラーリングしているため、複数ビットのエラーが発生した場合に、障害のない方のボードが使用されます。メモリに障害がある方のボードは、システムの稼動中に交換できます。

[PCIデバイス]

重要: 64ビット サーバの場合、デバイスは表示だけが可能で、変更はできません。

[PCIデバイス]オプションは、サーバにインストールされているPCIデバイスのコンフィギュレーション設定を表示します。これにより、IRQを変更できます。複数のPCIデバイスで1つの割り込みを共有することができます。

注: RBSUで変更されたIRQのみが、次の再起動中でも変更されたままになります。PCIデバイスの変更されていないIRQは、再起動中に変更される場合があります。

デバイスを無効にするには、デバイスを選択してEnterキーを押してください。IRQを変更するオプションとともにデバイスを無効にするオプションを含むメニューが表示されます。システムでそのデバイスを無効にできない場合は、変更できるIRQだけが表示されます。

重要: サーバがMicrosoft Windows 2000またはWindows Server 2003 OSを実行している場合、PCIホットプラグ ドライバをインストールしたサーバ上のPCIコントローラを無効にすると、PCIバス上のすべてのコントローラが無効になります。この問題を防ぐには、コントローラを無効にするのではなく取り外してください。



図2-10: [PCIデバイス]メニュー オプション

[標準ブート順序 (IPL)]

重要: [標準ブート順序 (IPL)]を使用できるのは、32ビット サーバだけです。

[標準ブート順序 (IPL)]オプションは、IPL (Initial Program Load) デバイスを設定し、サーバがブート可能なデバイスを検索する順序を制御します。

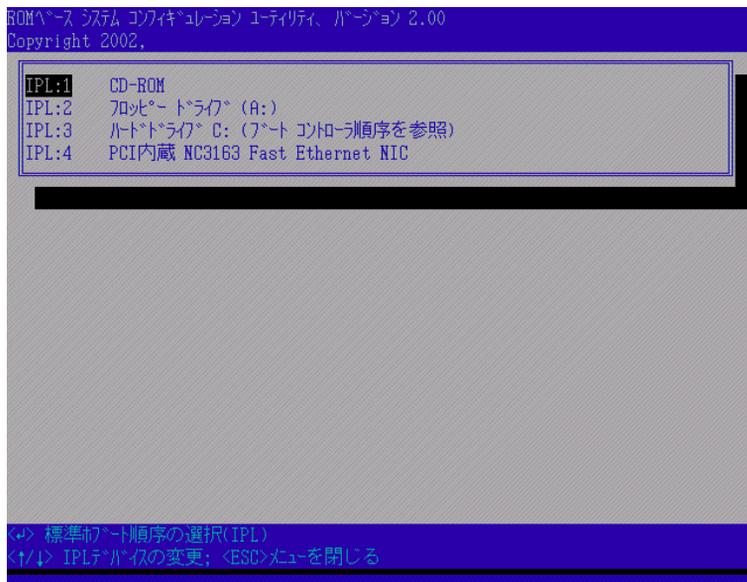


図2-11: [標準ブート順序 (IPL)]オプション

注: デバイスを有効または無効にした場合は、サーバを再起動してリストを更新してください。最後に再起動した後に有効にされたデバイスは、リストには表示されません。

[コントローラのブート順]

[コントローラのブート順]オプションは、インストールされている大容量記憶装置の中でプライマリ ブート コントローラとして使用するものを選択します。サーバは、このデバイス上のOSで起動を試みます。

プライマリ ブート コントローラは、コントローラ1に設定されています。

注: Option ROM Configuration for Arrays (ORCA) ユーティリティで**コントローラのブート順序**を変更した場合は、その変更がこのメニューに反映されます。



図2-12: [コントローラのブート順]オプション

注: [PCIデバイス]メニューで無効になったPCIデバイスは、[コントローラのブート順]画面ではまだ表示されます。

[日付と時刻]

[日付と時刻]オプションは、システムの日付と時刻を設定します。日付は、mm-dd-yyyy（月-日-年）形式で入力します。また時刻は、24時間（hh:mm:ss）形式で入力します。

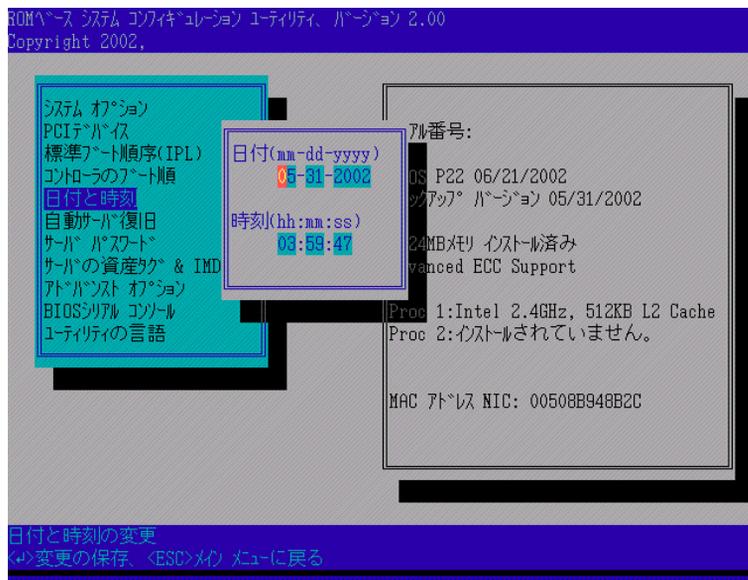


図2-13: [日付と時刻]オプション

[自動サーバ復旧]

[自動サーバ復旧]メニューには、自動サーバ復旧（ASR）の機能を設定するオプションがあります。

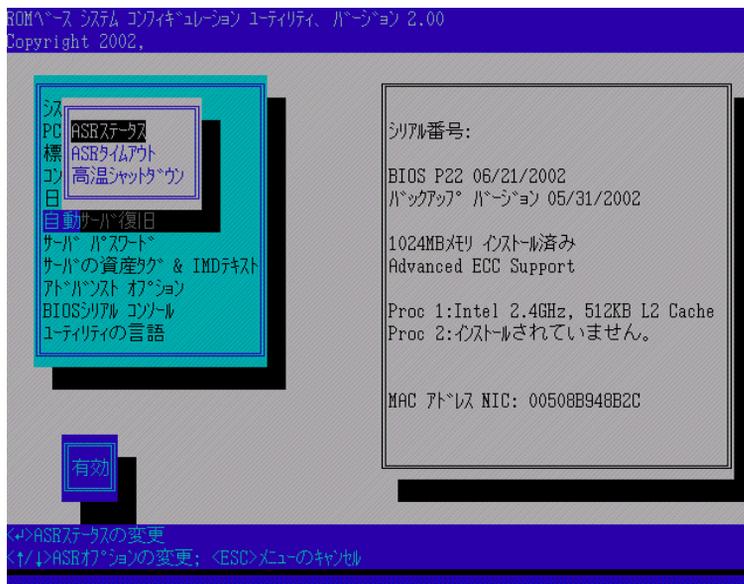


図2-14: [自動サーバ復旧]メニュー

次に、[自動サーバ復旧]メニューのオプションを示します。

- [ASRステータス]
- [ASRタイムアウト]
- [高温シャットダウン]

以下に、各オプションの詳細について説明します。

[ASRステータス]

[ASRステータス]オプションは単純な切り替え設定で、ASRを有効または無効にします。[無効]に設定すると、ASRの機能は実行されません。

[ASRタイムアウト]

[ASRタイムアウト]オプションは、反応のないサーバをリセットするためのタイムアウトの時間を設定します。選択した時間内にサーバが反応しないと、サーバは自動的にリセットされます。

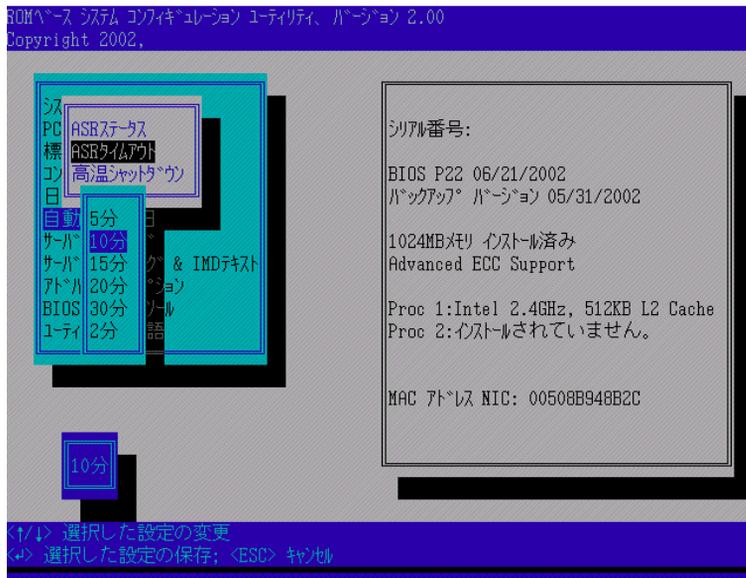


図2-15: [ASRタイムアウト]オプション

次に、選択できるタイムアウト設定を示します。

- 5分
- 10分
- 15分
- 20分
- 30分
- 2分 (32ビットサーバの場合にだけ選択可能)

[高温シャットダウン]

[高温シャットダウン]オプションは単純な切り替え設定で、危険な温度になったときにサーバの電源が自動的に切断される機能を有効または無効にします。設定を有効にすると（デフォルト）、温度が危険レベル5に達したときに、HPヘルス ドライバがシステムのシャットダウンを開始します。設定を無効にすると、HPヘルス ドライバは、危険レベルでシステムをシャットダウンします。

[サーバパスワード]

[サーバパスワード]メニューには、サーバのパスワード環境を設定するオプションがあります。

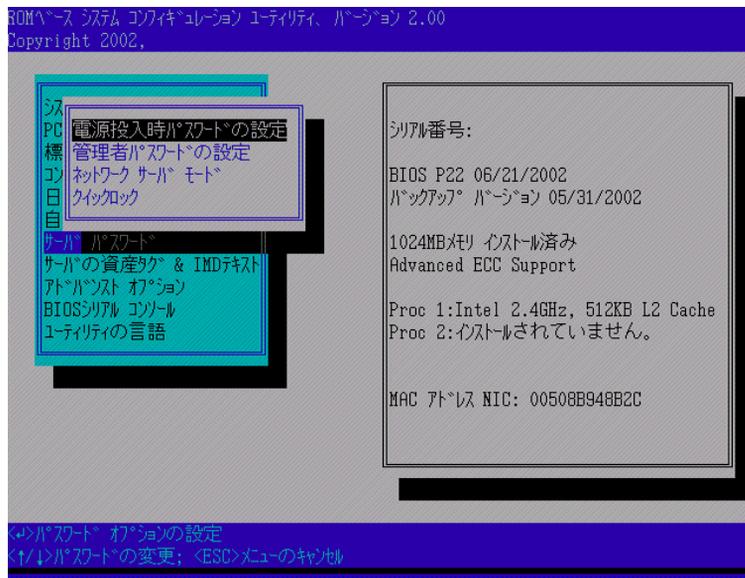


図2-16: [サーバパスワード]メニュー

次に、選択できるオプションを示します。

- [電源投入時パスワードの設定]
- [管理者パスワードの設定]
- [ネットワーク サーバ モード]
- [クイックロック]

以下に、各オプションの詳細について説明します。

[電源投入時パスワードの設定]

[電源投入時パスワードの設定]オプションは、パスワードを設定し電源投入時にサーバへのアクセスを制御します。正しいパスワードを入力しないと、サーバに電源を入れることができません。[電源投入時パスワードの設定]オプションは、最大7文字の単純な文字列を使用します。パスワードを無効化または消去するには、パスワードの入力を求めるメッセージが表示されたときに、パスワードの後に/(スラッシュ)を付けて入力します。

[管理者パスワードの設定]

[管理者パスワードの設定]オプションは、パスワードを設定して、サーバの管理機能へのアクセスを制御します。[管理者パスワードの設定]オプションは、最大7文字の単純な文字列を使用します。パスワードを無効化または消去するには、パスワードの入力を求めるメッセージが表示されたときに、パスワードの後に/(スラッシュ)を付けて入力します。

[ネットワーク サーバ モード]

[ネットワーク サーバ モード]オプションは単純な切り替え設定で、サーバがネットワーク サーバ モードで動作するように設定します。この機能は、電源投入時パスワードと連携して動作します。[無効]に設定すると、サーバは通常の動作をします。[有効]に設定すると、サーバは次のように動作します。

- ローカルのキーボードは、電源投入時パスワードが入力されるまでロックされます。
- 電源投入時パスワードの入力を求めるメッセージは表示されません。
- ディスケット ドライブにディスクが挿入されている場合、電源投入時パスワードをローカルで入力しないと、サーバは起動しません。

注: ネットワーク サーバ モードは、電源投入時パスワードが設定されるまで、有効にすることはできません。

[クイックロック]

[クイックロック]オプションは単純な切り替え設定で、**クイックロック**機能を有効または無効にします。[有効]に設定すると、**Ctrl+Alt+L**キーを押すことにより、キーボードがロックされます。キーボードは電源投入時パスワードがタイプされるまでロックされます。

注: 電源投入時パスワードの入力を求めるプロンプトで電源投入時パスワードが無効にされた場合は、RBSUでパスワードを変更するまで、クイックロック機能をアクティブにすることはできません。

[サーバの資産タグ&IMDテキスト]

[サーバの資産タグ&IMDテキスト]メニューには、サーバのシステム固有のテキストをカスタマイズするオプションがあります。この情報は、ProLiantサーバのオプション製品であるインテグレートド マネジメント ディスプレイ (IMD) に表示されます。

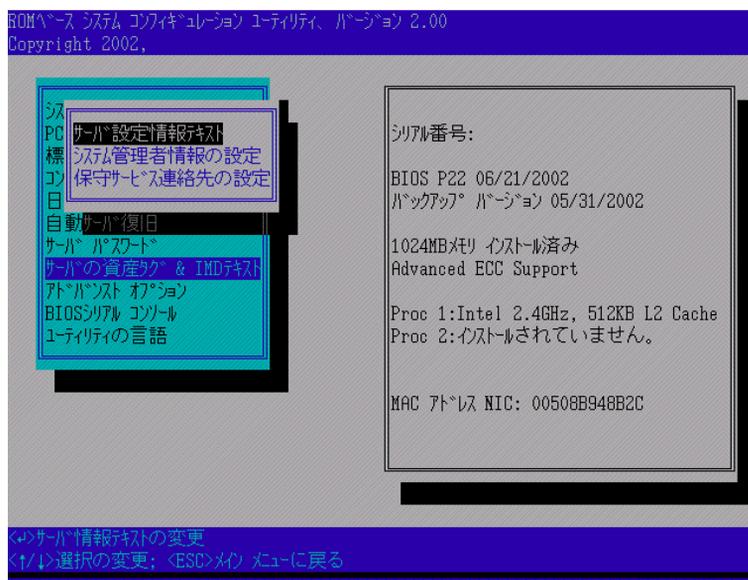


図2-17: [サーバの資産タグ&IMDテキスト]メニュー

次に、選択できるオプションを示します。

- サーバ設定情報テキストの設定
- システム管理者情報の設定
- 保守サービス連絡先の設定
- IMDカスタム テキストの設定 (64ビットサーバの場合にだけ選択可能)

以下に、各オプションの詳細について説明します。

[サーバ設定情報テキスト]

[サーバ設定情報テキスト]オプションは、サーバの参照情報を定義します。

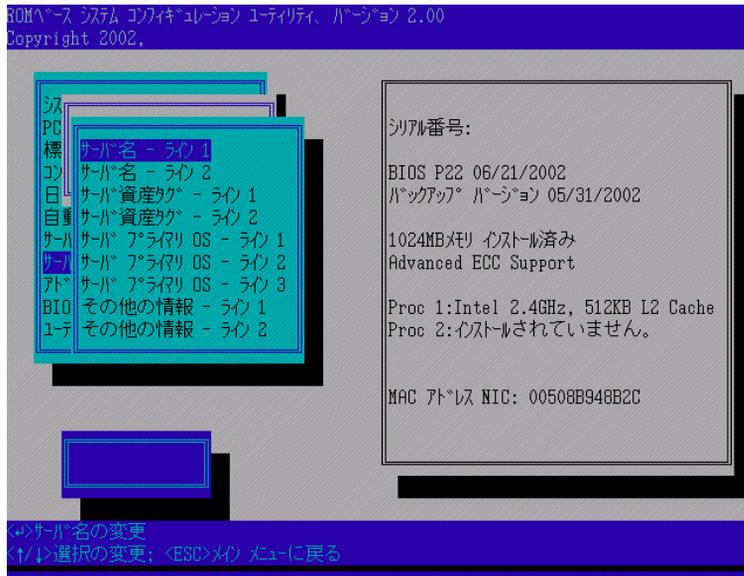


図2-18: [サーバ設定情報テキスト]メニュー オプション

[**サーバ名**] - サーバを識別する名前（2行）を定義します。各行に、14文字まで入力できます。

[**サーバ資産タグ**] - サーバを識別する資産タグ（2行）を定義します。各行に、16文字まで入力できます。

[**サーバ プライマリOS**] - サーバのプライマリOSに関する説明（3行）を定義します。各行に、14文字まで入力できます。

[**その他の情報**] - サーバを説明する追加テキスト（2行）を定義します。各行に、14文字まで入力できます。

[システム管理者情報の設定]

[システム管理者情報の設定]オプションは、サーバの管理者に関する参照情報を定義します。

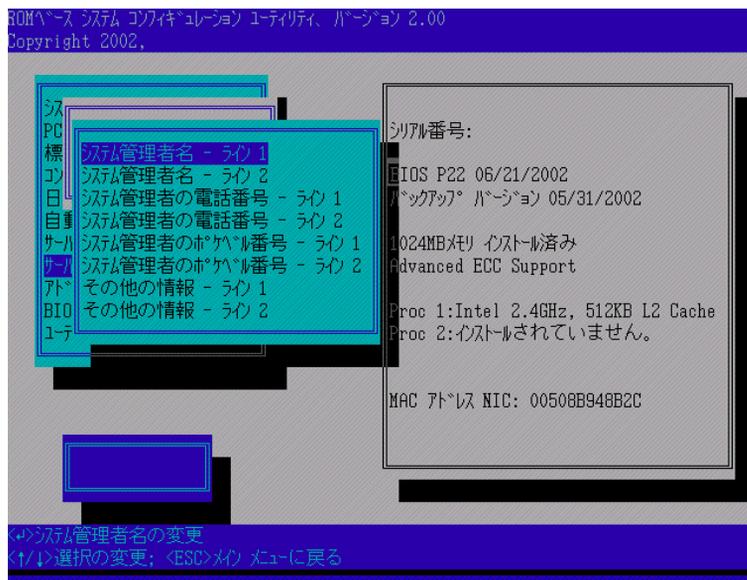


図2-19: [システム管理者情報の設定]メニュー オプション

[システム管理者名] - サーバの管理者名に関する説明（2行）を定義します。各行に、14文字まで入力できます。

[システム管理者の電話番号] - サーバ管理者の電話番号（2行）を定義します。各行に、14文字まで入力できます。

[システム管理者のポケベル番号] - サーバ管理者のポケベル番号（2行）を定義します。各行に、14文字まで入力できます。

[その他の情報] - サーバ管理者に関する追加テキスト（2行）を定義します。各行に、14文字まで入力できます。

[保守サービス連絡先の設定]

[保守サービス連絡先の設定]オプションは、サーバの保守の問い合わせに関する参照情報を定義します。

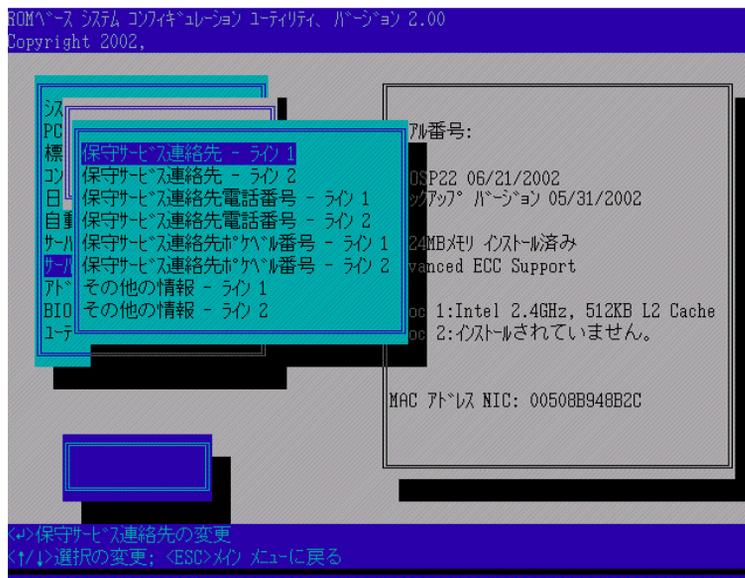


図2-20: [保守サービス連絡先の設定]メニュー オプション

[保守サービス連絡先] - 保守の問い合わせ先名に関する説明（2行）を定義します。各行に、14文字まで入力できます。

[保守サービス連絡先電話番号] - 保守の問い合わせ先の電話番号（2行）を定義します。各行に、14文字まで入力できます。

[保守サービス連絡先ポケットベル番号] - 保守の問い合わせ先のポケットベル番号（2行）を定義します。各行に、14文字まで入力できます。

[その他の情報] - 保守の問い合わせに関する追加テキスト（2行）を定義します。各行に、14文字まで入力できます。

[IMDカスタム テキストの設定]

[IMDカスタム テキストの設定]オプションを選択すると、簡単な説明を入力できます。

重要: [IMDカスタム テキストの設定]オプションを使用できるのは、64ビットサーバだけです。

[IMDテキストの設定: IMDアイドル画面] - 3行の説明を定義します。各行に、16文字まで入力できます。

[IMDテキストの設定: IMDカスタム メニュー画面] - 4行の説明を定義します。各行に、14文字まで入力できます。

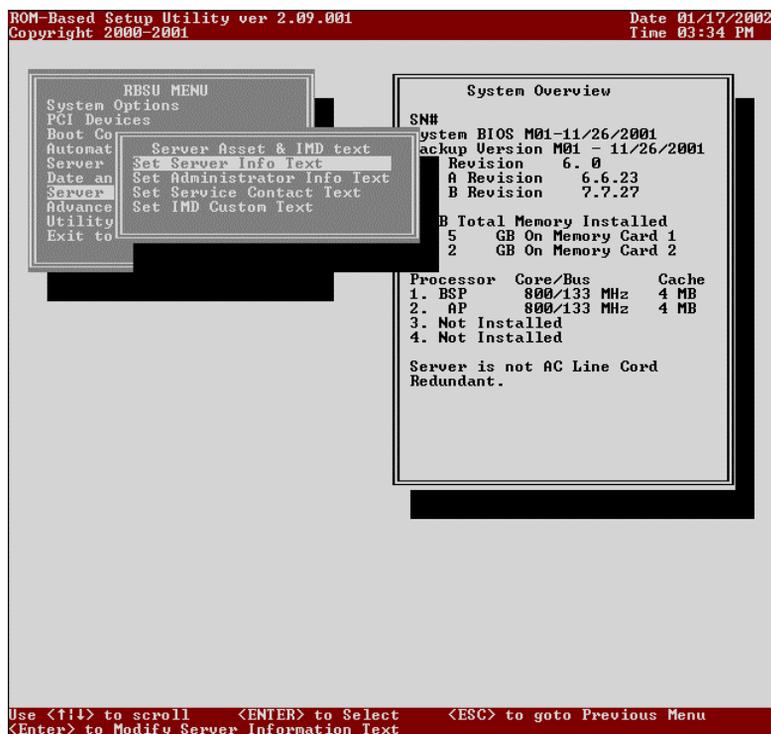


図2-21: [IMDカスタム テキストの設定]メニュー オプション

[アドバンスト オプション]

[アドバンスト オプション]メニューには、サーバの機能の詳細設定を行うオプションがあります。

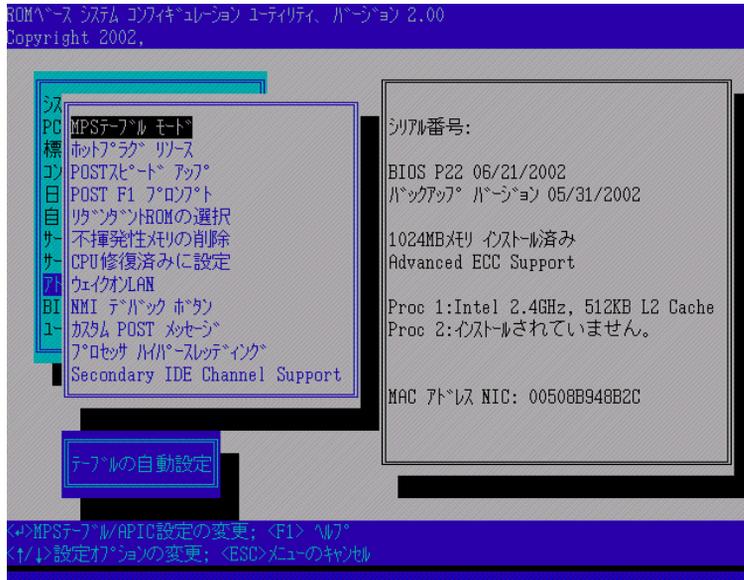


図2-22: [アドバンスト オプション]メニュー

次に、オプションを示します。

- [MPSテーブル モード] (32ビット サーバにだけ適用)
- [ホットプラグ リソース] (32ビット サーバにだけ適用)
- [POSTスピードアップ] (32ビット サーバにだけ適用)
- [POST F1 プロンプト]
- [リダンダントROMの選択]
- [不揮発性メモリの削除]
- [CPU修復済みに設定]
- [ウェイク オンLAN] (32ビット サーバにだけ適用)
- [IDE EDD 3.0] (64ビット サーバにだけ適用)

- [NMIデバッグ ボタン] (32ビット サーバにだけ適用)
- [カスタムPOSTメッセージ]
- [プロセッサ ハイパー スレッディング]
- [セカンダリIDEチャンネル サポート] (ProLiant ML530 G2サーバにだけ適用)

以下に、各オプションの詳細について説明します。

[MPSテーブル モード]

重要: [MPSテーブル モード]オプションを使用できるのは、32ビット サーバだけです。

[MPSテーブル モード]オプションは、選択したOSに基づいて自動的に設定され、割り込みルーティングに使用されます。

重要: この設定はあらかじめ選択されています。このメニューでデフォルト設定を変更できますが、OSが正常に動作するには、正しい(デフォルト)設定が選択されている必要があります。

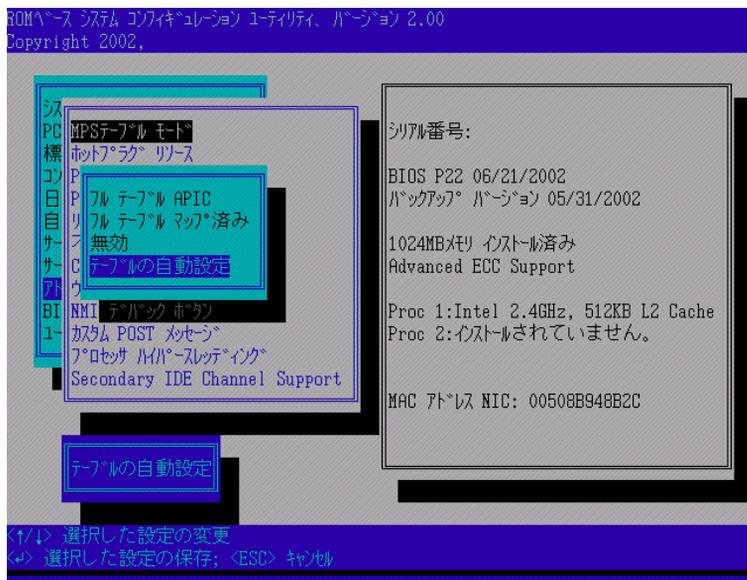


図2-23: [MPSテーブル モード]オプション

[ホットプラグ リソース]

重要: [ホットプラグ リソース]を使用できるのは、32ビット サーバだけです。

[ホットプラグ リソース]オプションは、ホットプラグ予約モードを設定します。[ホットプラグ リソース]オプションを[正常]に設定すると、サーバは、将来PCIホットプラグ デバイスを追加するための余分なメモリ スペースとI/Oスペースを予約します。PCIホットプラグ動作を予定していない場合は、[ホットプラグ リソース]メニュー オプションを[無効]に設定します。

重要: この設定はあらかじめ選択されています。設定を変更しないことをおすすめします。

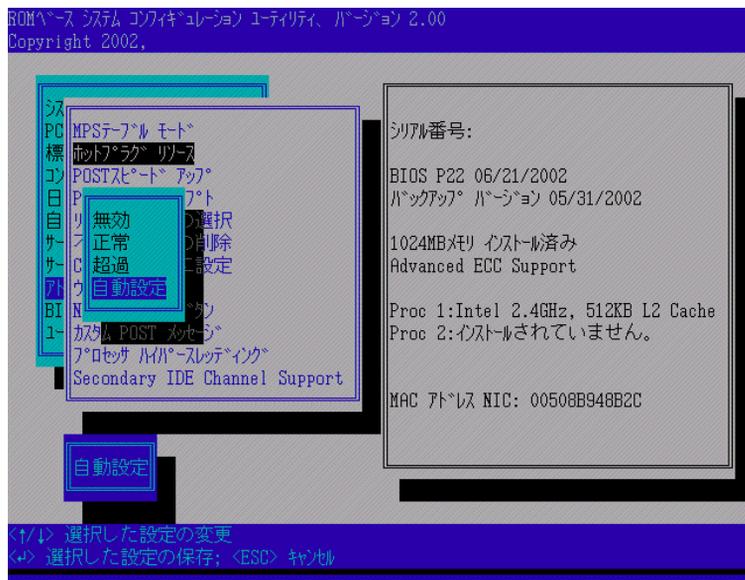


図2-24: [ホットプラグ リソース]オプション

[POSTスピードアップ]

重要: [POSTスピードアップ]オプションを使用できるのは、32ビット サーバだけです。

[POSTスピードアップ]オプションは単純な切り替え設定で、拡張電源投入時メモリ テストの実行を有効または無効にします。[POSTスピードアップ]を[有効]に設定すると、拡張電源投入時メモリ テストが実行されないため、サーバの起動は高速化されます。

[POST F1プロンプト]

[POST F1プロンプト]オプションは単純な切り替え設定で、電源投入シーケンスでエラーが発生した場合に、サーバが、ユーザにF1キーを押すことを要求するように設定できます。これにより、電源投入シーケンスは続行されます。一連のシステム テストがPOST中に実行され、以下の項目が続行されます。

- システムが動作継続可能な状態で障害が発生した場合、システムは起動動作を継続しますが、メッセージを表示します。
- 重要なコンポーネントに障害が発生したり欠落した場合、システムは起動を試みます。起動できれば、メッセージとF1プロンプトが表示されます。
 - [有効]が選択され、エラーが発生している場合、起動動作が継続される前に、F1キーが押されるまでシステムはF1プロンプトで停止します。
 - [遅延]が選択され、エラーが発生している場合、システムはF1プロンプトで20秒間動作を停止してから、OSの起動動作を継続します。
- 欠落または障害が発生したコンポーネントがあり、システムが動作できない場合、そのコンポーネントが交換されるまでシステムは停止します。

注: [POST F1プロンプト]の設定は、ProLiant MLおよびDLサーバではデフォルトで有効になっており、BLサーバではデフォルトで遅延になっています。

[リダンダントROMの選択]

[リダンダントROMの選択]オプションは、サーバのROMを現在のROMとバックアップROMの間で切り替えます。リダンダントROMがあるすべてのサーバで、バックアップROMに切り替えることができます。

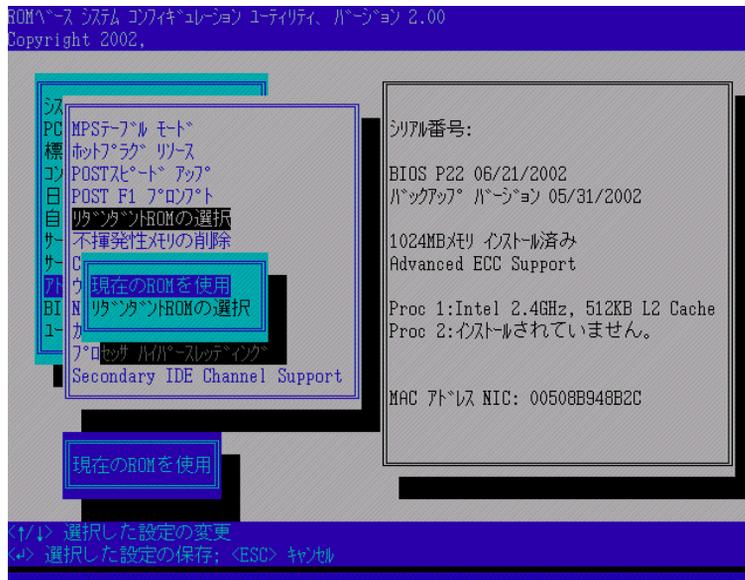


図2-25: [リダンダントROMの選択]オプション

[不揮発性メモリの削除]

[不揮発性メモリの削除]オプションは、[はい、削除を選択します。]を選択すると、サーバの不揮発性メモリを工場出荷時の初期状態にリセットします。次のようなポップアップメッセージが表示されます。

注意: NVRAMが消去されるとすべての設定がデフォルト値に設定されます。行われた変更はすべて喪失します。{はい(Y)/いいえ(N)}

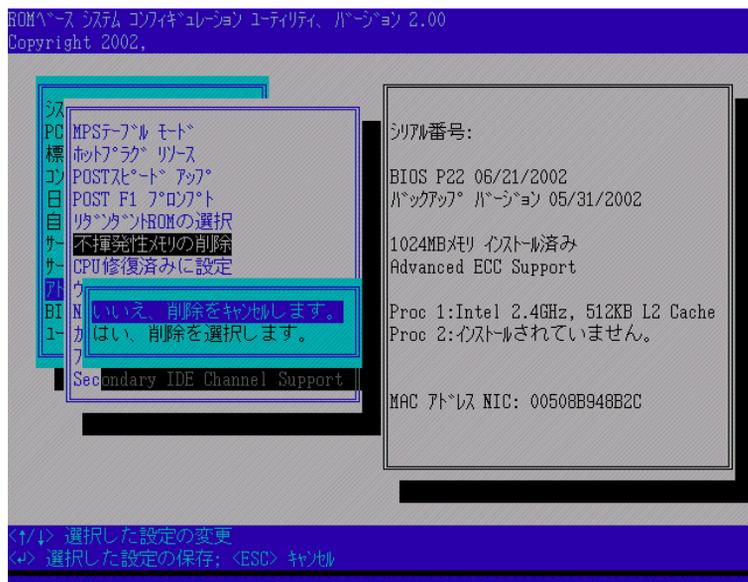


図2-26: [不揮発性メモリの削除]オプション

[CPU修復済みに設定]

通常の動作中に、CPUに障害が発生する場合があります。CPUに障害が発生したとき、[CPU修復済みに設定]オプションは、以前に障害の発生したCPUが正常に機能するようになったことを示すために使用されます。

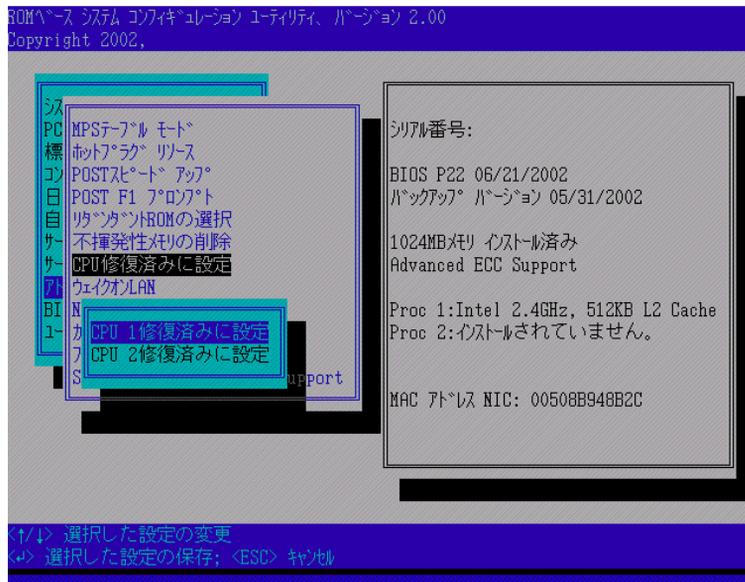


図2-27: [CPU修復済みに設定]オプション

[ウェイク オンLAN]

重要: [ウェイク オンLAN]オプションを使用できるのは、32ビットサーバだけです。

[ウェイク オンLAN]オプションは単純な切り替え設定で、ウェイク オンLAN機能を有効または無効にします。[有効]に設定すると、ネットワーク コントローラを使用してサーバをリモートで起動できます。

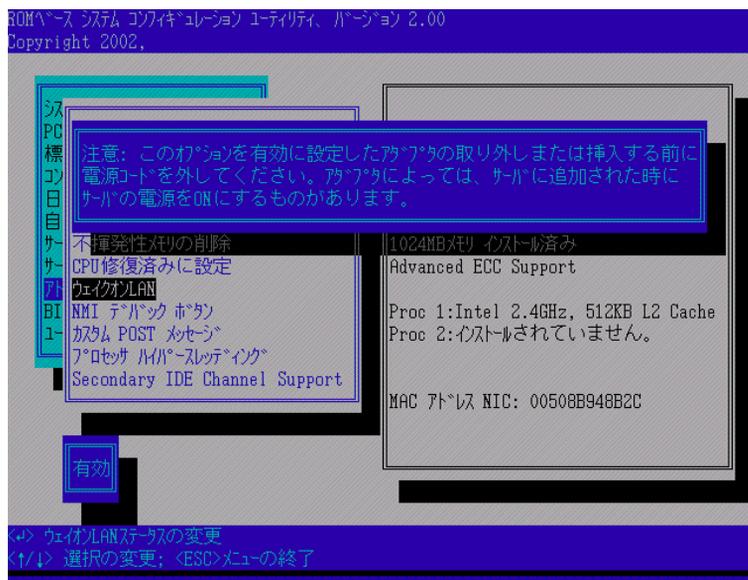


図2-28: [ウェイク オンLAN]オプション

[IDE EDD 3.0]

重要: [IDE EDD 3.0]オプションを使用できるのは、64ビット サーバだけです。

[IDE EDD 3.0]機能は単純な切り替え設定で設定できます。有効にすると、[IDE EDD 3.0]は、IDE (LS 240 CD-ROM) に対して内蔵のEFIドライバを使用します。無効にすると、[IDE EDD 3.0]は、IA32 IDEオプションROMを使用します。

[NMIデバッグ ボタン]

重要: [NMIデバッグ ボタン]オプションを使用できるのは、32ビット サーバだけです。

[NMIデバッグ ボタン]オプションは単純な切り替え設定で、システムのソフトウェアがロックアップしたときのデバッグ機能を有効にできます。[NMIデバッグ ボタン]は、NMI (マスク不可能割り込み) を生成して、OSのデバッグを使用可能にします。



警告: デバッグ機能が有効になっている場合、OSが正常に動作しているときにシステム ボード上のNMIデバッグ ボタンを押すと、ブルー スクリーン トラップ、アベンド、またはパニックが発生し、システムが停止します。

[カスタムPOSTメッセージ]

[カスタムPOSTメッセージ]オプションを使用すると、POSTの実行中に表示可能なメッセージを入力できます。

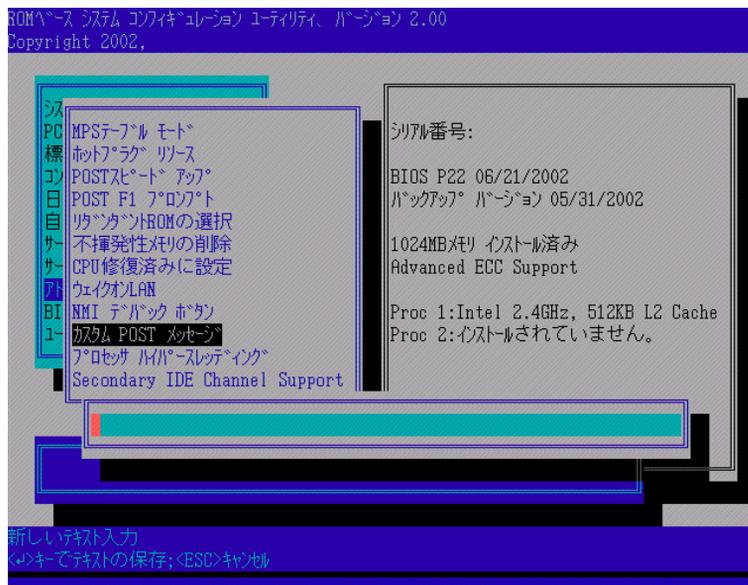


図2-29: [カスタムPOSTメッセージ]オプション

[プロセッサ ハイパー スレッディング]

[プロセッサ ハイパー スレッディング]オプションは切り替え設定で、インテル®のハイパー スレッディング テクノロジーを有効または無効にできます（デフォルトでは有効）。[プロセッサ ハイパー スレッディング]は、1基のプロセッサの共有ハードウェア リソースを使用して複数のタスクを同時に実行できる2つの論理プロセッサを提供します。これはシステムBIOSを介してサポートされます。[プロセッサ ハイパー スレッディング]の詳細については、HPのWebサイト issgweb:2200/products/servers/technology/hyper-threading.html（英語）にアクセスしてください。

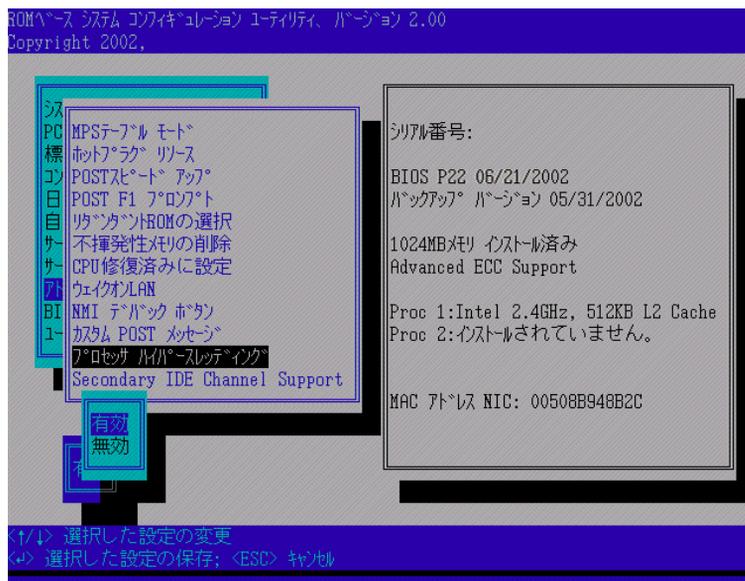


図2-30: [プロセッサ ハイパー スレッディング]オプション

[セカンダリIDEチャンネル サポート]

[セカンダリIDEチャンネル サポート]オプションは切り替え設定で、セカンダリIDEチャンネルを有効または無効にします。有効にした場合は、追加のIDE CD-ROMドライブをセカンダリIDEチャンネルに接続できます。

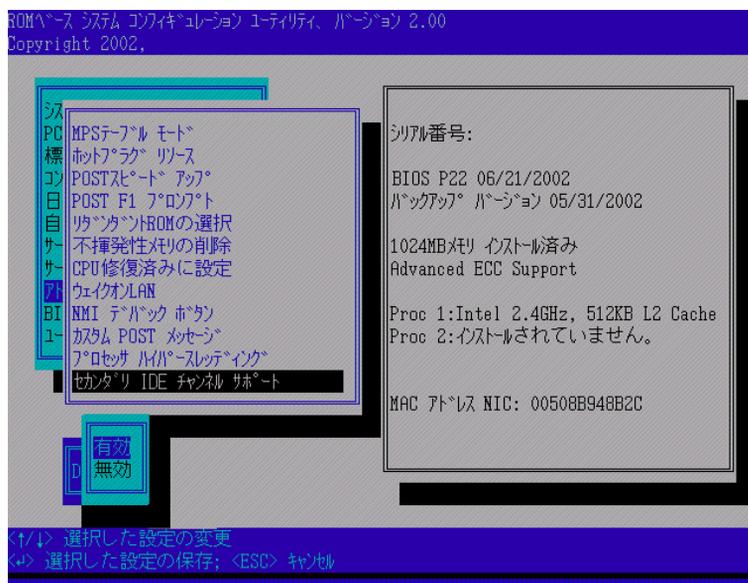


図2-31: [セカンダリIDEチャンネル サポート]オプション

[BIOSシリアル コンソール/EMSサポート]

重要: BIOSシリアル コンソールを使用できるのは、一部の32ビット サーバだけです。

一部の言語または文字では、特別なエミュレーション モードが必要な場合があります。

BIOSシリアル コンソールを使用すると、サーバのCOMポートへのシリアル接続によってリモートでRBSUを実行することができます。リモートで設定しようとするマシンにはキーボードとモニタは必要ありません。BIOSシリアル コンソールの使用方法の詳細については、HPの下記のFTPサイトにある『HP BIOSシリアル コンソール ユーザ ガイド』を参照してください。

<ftp://ftp.compaq.com/pub/products/servers/management/smartsmart/bios-serialconsole.pdf>

BIOSシリアル コンソールは、VT100+プロトコルと、ANSIおよびVT100端末エミュレーションをサポートするように設計されています。VT100は、すべての端末エミュレーション プログラムでサポートされています。ただし、ANSIの方が、拡張グラフィックスをサポートしているため、美しく表示されます。システムが対応している場合には、ANSIの使用をおすすめします。コマンドライン インタフェース (CLI) サポートは新しい一部のサーバで利用でき、VT100エミュレーションを使用してサーバを設定する時に、より早く、互換性のある表示を提供します。詳しくは、第4章の「コマンドライン インタフェース」を参照してください。

BIOSシリアル コンソールを介してRBSUを実行したときのメイン メニューは、ローカル サーバから実行したときのメイン メニューと多少異なります。

図2-32は、ANSIモードでのBIOSシリアル コンソールのメイン メニューを示します。

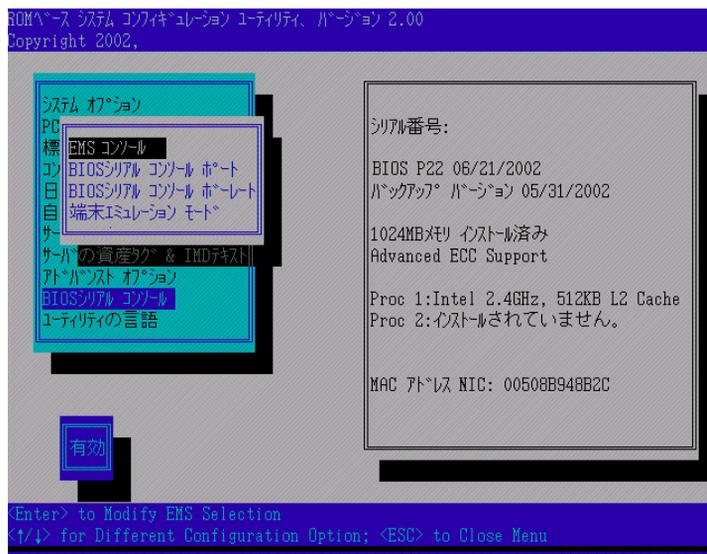


図2-32: ANSIモードでのBIOSシリアル コンソールのメイン メニュー

[ユーティリティの言語]

重要: 現在のところ、64ビットサーバではすべての言語がサポートされているわけではありません。

[ユーティリティの言語]オプションは、RBSUの表示に使用する言語を設定します。

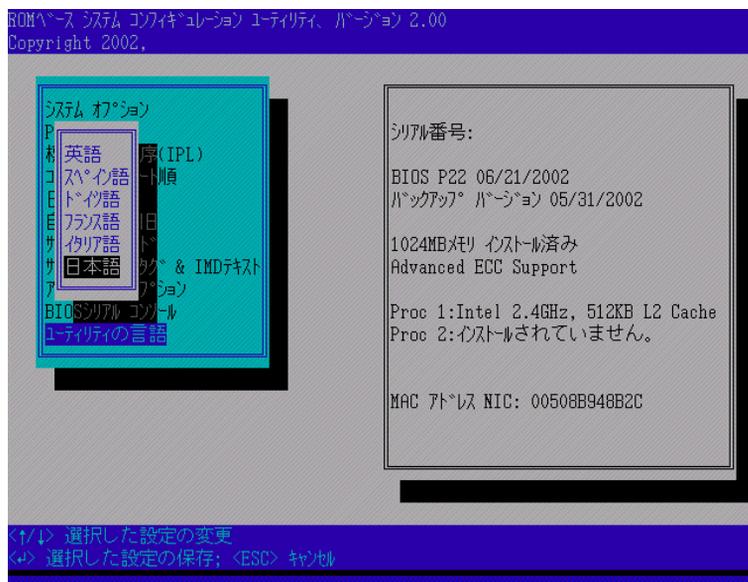


図2-33: [ユーティリティの言語]オプション

選択できる言語は以下のとおりです。

- 英語
- スペイン語
- ドイツ語
- フランス語
- イタリア語
- 日本語

ROMベースの拡張機能

一部のHP ProLiantサーバには、次の新しいROMベースの拡張機能が組み込まれています。

- ほとんどの場合にユーザの操作なしにシステム全体を自動コンフィギュレーションする自動コンフィギュレーション プロセス
- 内蔵のサーバ診断機能や内蔵のサーバ セットアップを介したシステム情報の参照 (Inspect) ユーティリティを提供する[System Maintenance Menu]
- システム コンフィギュレーションと起動ドライブを消去する、RBSUの新しい消去オプション

サーバがこれらの新機能を備えているかどうかについては、各サーバの『セットアップ/インストール ガイド』を参照してください。サーバでこれらの機能が使用できる場合は、ガイドで説明されています。この章では、ROMベースの次の拡張機能について説明します。

- 内蔵のサーバセットアップ
- 自動コンフィギュレーション プロセス
- 起動オプション
- オペレーティング システムのインストール

内蔵のサーバセットアップ

注: このメニューは、全てのサーバで利用できるわけではありません。

内蔵のサーバセットアップ機能は、サーバ診断機能、セットアップユーティリティ (RBSU)、および一部のシステムのシステム情報の参照 (Inspect) ユーティリティにアクセスできる[System Maintenance Menu]で構成されています。システムROMに組み込まれたこのメニュー機能は、一部のHP製サーバでサポートされている従来のシステムパーティション機能の代わりに使用されます。

[System Maintenance Menu]にアクセスするには、起動オプション画面でメッセージが表示されたときにF10キーを押します (この章の「起動オプション」を参照)。

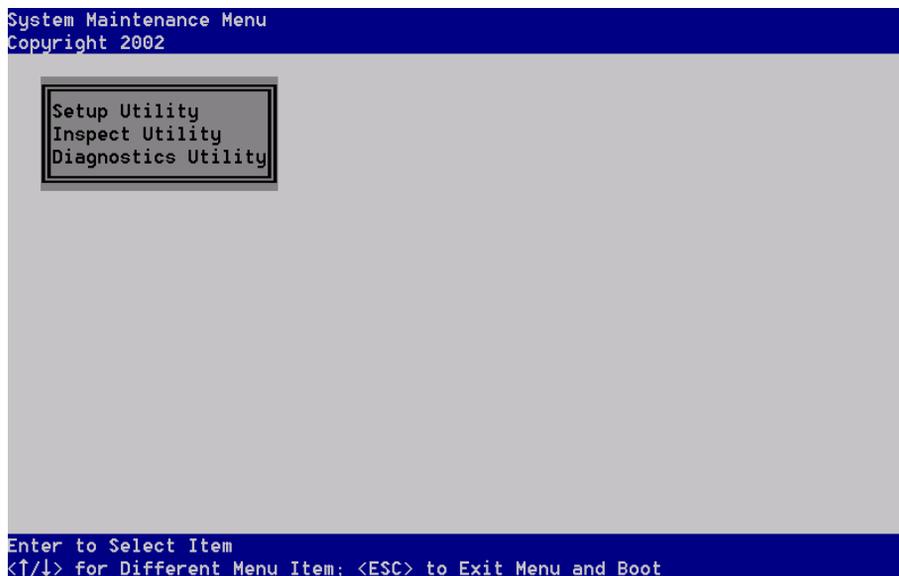


図3-1: [System Maintenance Menu]

[System Maintenance Menu]では、次のオプションが表示されます。

- [Setup Utility] - RBSUを実行します (このガイドの第1章および第2章を参照)。
- [Inspect Utility] - 内蔵のシステム情報の参照 (Inspect) ユーティリティを実行します (この章の「ROMベースのシステム情報の参照 (Inspect) ユーティリティ」を参照)。

- **[Diagnostics Utility]** - 内蔵の診断ユーティリティを実行します（この章の「ROMベースの診断ユーティリティ」を参照）。

セットアップユーティリティ

セットアップユーティリティを実行するには、**[System Maintenance Menu]**から**[Setup Utility]**を選択します。**[Setup Utility]**を選択すると**[System Maintenance Menu]**を終了し、RBSUを実行します。

RBSUの消去オプション

RBSUの新しい消去オプションは、以前SmartStart CD上にあったEraseユーティリティに代わるもので、これによりシステム コンフィギュレーションと起動ドライブを消去できます。この新機能を含まないバージョンのRBSUでは、RBSUの**[アドバンスト オプション]**メニューで**[不揮発性メモリの削除]**オプションを使用して、不揮発性メモリ（NVRAM）を工場出荷時の初期状態にリセットすることでシステム コンフィギュレーションを消去できます。新しいオプションの**[NVRAM/ブート ディスクの消去]**は、同様にNVRAMをリセットすることでシステム コンフィギュレーションを消去しますが、それだけでなく、起動ディスクも消去します。

このオプションは、サーバを再インストールする際に、オペレーティング システムを再インストールするためにNVRAMと起動ドライブを消去する必要がある場合にだけ使用してください。**[NVRAM/ブート ディスクの消去]**オプションをサーバで使用できる場合、このオプションは、RBSUのメイン メニューにある**[アドバンスト オプション]**メニューに表示されます。これらのメニューについて詳しくは、このガイドの第1章を参照してください。

仮想フロッピー ディスク

仮想フロッピー ディスクは、オペレーティング システムのインストールに必要な起動ドライバ（SCSIまたはRAIDコントローラ ドライバなど）が置かれたシステムROM内の格納場所です。通常、仮想フロッピー ディスクに配置される起動ドライバは、オペレーティング システムのメディアに含まれていないか、または新しいコントローラ用に更新されたドライバです。サポートされているオペレーティング システムでは自動的にこれらのドライバを検出するため、ユーザの操作は必要なくなります。OSのインストール後、これらの起動ドライバを最新バージョンに更新して、システムをさらに最適化することをおすすめします。[仮想フロッピー ディスク]オプションは、RBSUで有効または無効にすることができます。

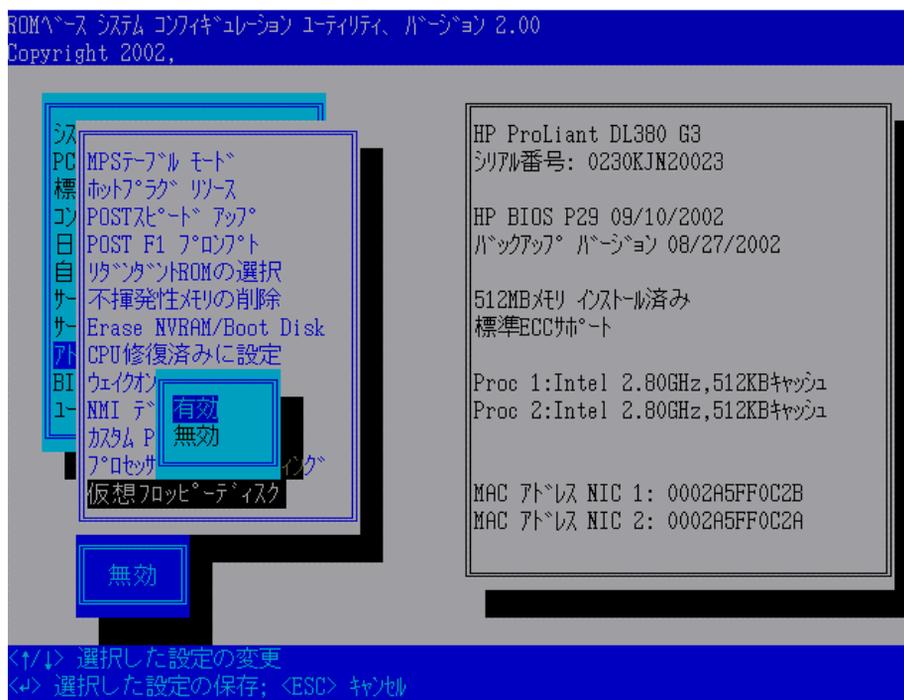


図3-2: [仮想フロッピー ディスク]オプション

システム情報の参照 (Inspect) ユーティリティ

一部のシステムではシステム情報の参照 (Inspect) ユーティリティを利用することができます。ご使用のシステムで利用可能な場合は、[System Maintenance Menu]から[Inspect Utility]を選択します。

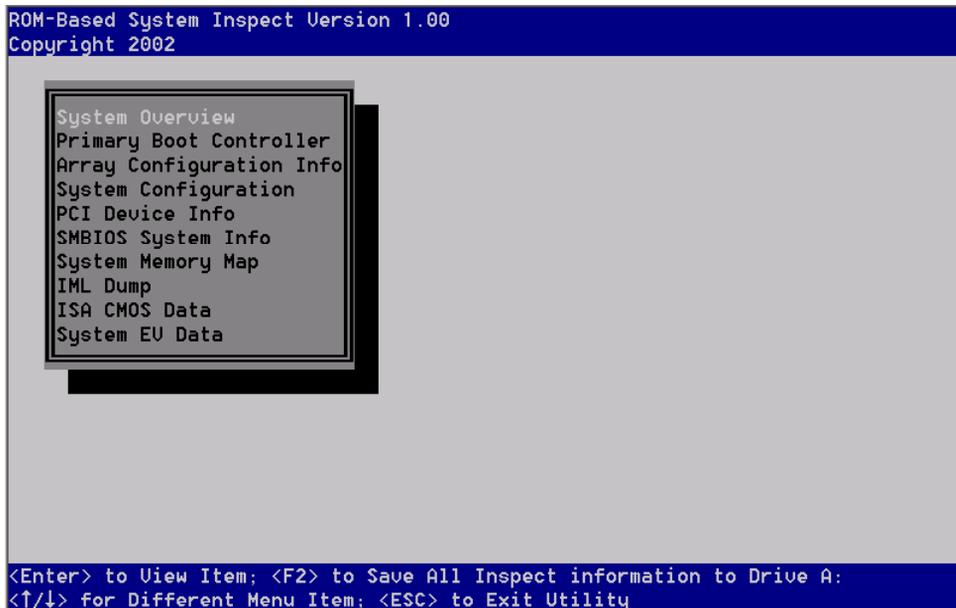


図3-3: システム情報の参照 (Inspect) ユーティリティのメニュー

システム情報の参照 (Inspect) ユーティリティは、システムROMに組み込まれており、システム コンフィギュレーション情報の表示やディスク上への情報の保存を可能にします。このユーティリティは、一部のHP製サーバでサポートされている従来のシステムパーティション機能に含まれているシステム情報の参照 (Inspect) ユーティリティに代わって使用されます。

診断ユーティリティ

診断ユーティリティを実行するには、[System Maintenance Menu]から[Diagnostics Utility]を選択します。

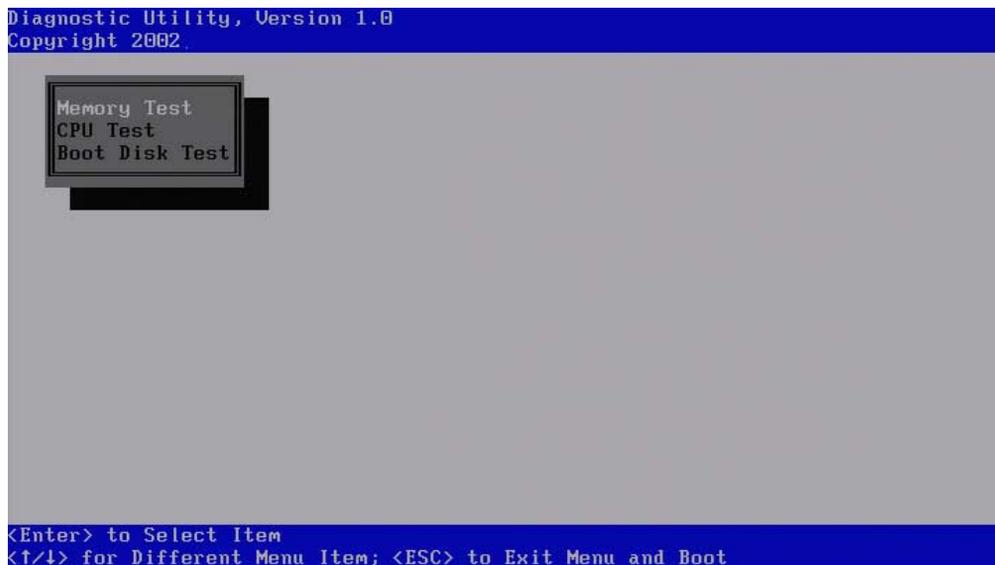


図3-4: 診断ユーティリティのメニュー

診断ユーティリティは、システムROMに組み込まれています。このユーティリティを使用すると、オペレーティングシステムの起動に必要なサーバの3つの主要サブシステムの有効性を、起動前に短時間で確認することができます。

注: フル機能のサーバ診断ユーティリティはSmartStart CDで利用可能です。

次に示す、3つのテスト オプションが提供されます。

- [Memory Test] - システムのすべてのメモリをテストします（この章の「メモリ診断テスト」を参照）。
- [CPU Test] - システムのすべてのプロセッサをテストします（この章の「CPU診断テスト」を参照）。

CPU診断テスト

CPU診断テストを実行するには、[Diagnostic Utility]メニューから[CPU Test]を選択します。テストが実行され、すべてのプロセッサが正常に機能している場合は、図3-6のような画面が表示されます。



```
BIOS CPU Diagnostic
Copyright (c) 2002

Status  Slot      CPU Information
-----  -
OK      Proc 1     Intel 1500/100 MHz
OK      Proc 2     Intel 1500/100 MHz
        Proc 3     Not Installed
        Proc 4     Not Installed
        Proc 5     Not Installed
        Proc 6     Not Installed
        Proc 7     Not Installed
        Proc 8     Not Installed

ESC to Exit
```

図3-6: CPU診断テスト

CPU診断テストは、各プロセッサのレジスタとMP機能をチェックします。このテストは、まず、16ビットレジスタおよび32ビットレジスタをすべてチェックし、次に、すべてのプロセッサのすべてのフラグをチェックします。エラーが発生していない場合、各プロセッサの[Status]欄に[OK]が表示されます。エラーが発生している場合は、エラーの発生したプロセッサの[Status]欄に[X]が表示されます。

起動ディスク診断テスト

起動ディスク診断テストを実行するには、[Diagnostic Utility]メニューから[Boot Disk Test]を選択します。テストが実行され、図3-7のような画面が表示されます。

```
Boot Disk Test
Copyright 2002, COMPAQ Computer Corporation

  Boot Disk Status:    Pass - Disk Present.

  Boot Disk Ready:    Pass - Disk Ready.

  Verify Boot sector:  Pass - Valid OS Boot Sector Present.

  Primary Partition 01
    State : Boot Partition      File system type: Fat16
  Primary Partition 02
    State : non active          File system type: Empty
  Primary Partition 03
    State : non active          File system type: Empty
  Primary Partition 04
    State : non active          File system type: Empty _

<Any Key> to Exit Menu.
```

図3-7: 起動ディスク診断テスト

起動ディスク診断テストは、プライマリ ブート コントローラの存在と準備状態を確認します。コントローラが存在して準備ができている場合は、オペレーティング システムの有効な起動セクタがあるかどうかをチェックします。サーバに起動可能なオペレーティング システムがインストールされている場合、これら3つのテストすべてに合格しなければなりません。テストのうちのいずれかに失敗する場合、サーバの起動の際に問題が発生する可能性があります。

自動コンフィギュレーション プロセス

自動コンフィギュレーション プロセスは、サーバを最初に起動する際に自動的に実行されま
す。多くの場合、電源投入シーケンス中に、システムROMは、ユーザの操作を必要とするこ
となくシステム全体を自動的にコンフィギュレーションします。ほとんどの場合、このプロセ
ス中にOption ROM Configuration for Arrays (ORCA)ユーティリティが、サーバに接続されて
いるドライブの数に応じて、アレイをデフォルト設定に自動的にコンフィギュレーションしま
す。表3-1に、各構成を示します。

表3-1: ORCAによるRAIDレベルの設定

インストールされている ドライブ数	使用されるドライブ数	RAIDレベル
1	1	RAID 0
2	2	RAID 1
3、4、5、または6	3、4、5、または6	RAID 5
7以上	0	なし

注: 起動ドライブが論理ボリュームを含んでいる場合、またはシステムに7台以上のドライブがインストー
ルされている場合、ORCAはアレイを自動的にコンフィギュレーションしません。この場合、ユーザが
ORCAを実行して、アレイをコンフィギュレーションする必要があります。ORCAの実行方法について詳
しくは、サーバの『セットアップ/インストールガイド』を参照してください。

図3-8に示すように、自動コンフィギュレーション プロセスは、デフォルトでは、デフォルトのオペレーティング システム用にシステムをコンフィギュレーションします。言語設定、オペレーティング システム設定、プライマリ ブート コントローラ設定など、自動コンフィギュレーション プロセスのデフォルト設定を変更する場合は、システムのPOST後にF9キーを押してRBSUを実行します。必要に応じて設定を選択したら、RBSUを終了しサーバを再起動してください。RBSUの使用方法について詳しくは、このガイドの第1章を参照してください。

```
System currently defaulted to Windows 2000. Run RBSU to modify OS settings.  
Press "F10" key for System Maintenance Menu  
Press "F9" for ROM-Based Setup Utility  
System will boot in 9 seconds.
```

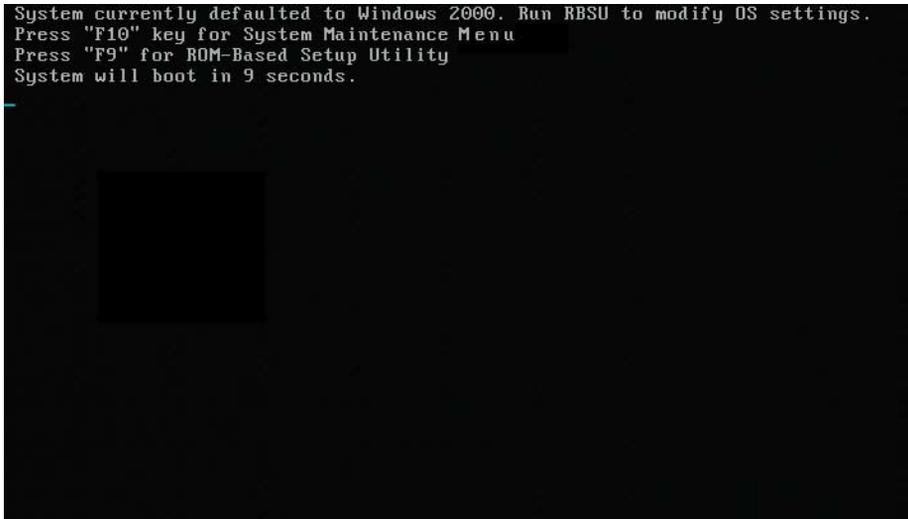


図3-8: 自動コンフィギュレーション画面

起動オプション

自動コンフィギュレーション プロセスが完了すると、またはRBSUの終了後にサーバが再起動すると、電源投入時セルフテスト (POST) が実行された後に、起動オプション画面が表示されます。



図3-9: 起動オプション画面

この画面が数秒間表示された後、システムは、起動可能なCDまたはハードディスク ドライブからの起動を試みます。この画面が表示されている間に、画面上のメニューを使用して、次のいずれかの操作を行うことができます。

- オペレーティング システムのCDまたはSmartStart CDを挿入して、オペレーティング システムをインストールします。詳しくは、この章の「オペレーティング システムのインストール」を参照してください。
- **F9**キーを押してRBSUでサーバのコンフィギュレーションを変更します。RBSUの使用法について詳しくは、このガイドの第1章および第2章を参照してください。
- **F10**キーを押して、[Menu]を実行します。詳しくは、この章の「内蔵のサーバ セットアップ」を参照してください。

操作を行わない場合、システムは、起動可能なCD、ハードディスク ドライブの順で、それらからの起動を試みます。

POSTエラーが発生した場合の起動オプション

POSTエラーが発生すると、システムは、図3-10に示すようなエラー画面（例）を表示して停止し、メニューの選択を待ちます。エラーメッセージに回答して起動プロセスを続行するにはF1キーを押します。そうでない場合は、メニューから他のオプションを選択します。

```
6144 MB Initialized / 7680 MB Detected / 1536 MB Redundant
System BIOS - P44 (01/08/2002)
Copyright 1982,2002

Processor 1 Initialized at 1500/100/100 MHz with 1 MB Cache
Processor 2 Initialized at 1500/100/100 MHz with 1 MB Cache

Slot 0 Smart Array 5i Controller                               1 Logical Drive
1777-Slot 0 Drive Array - ProLiant Storage Enclosure Problem Detected
SCSI Port 1: Interrupt Signal Inoperative - Check SCSI Cables

Insert OS CD for Unassisted OS Installation.
Insert SmartStart CD for Assisted Installation.
System currently configured for Other OS.

Press "F1" key to continue
      "F5" key for ROM-Based Setup Utility
      "F10" key for System Maintenance Menu
```

図3-10: POSTエラーが発生した後の起動オプション画面

オペレーティングシステムのインストール

オペレーティングシステムを自動インストールする場合は、CD-ROMドライブにSmartStart CDを挿入し、インストールプロセスを開始します。このプロセスでは、オペレーティングシステムとサーバのサポートソフトウェアがインストールされます。この機能をサポートするオペレーティングシステムについて詳しくは、『SmartStartのインストール』ポスターを参照してください

OSを手動でインストールする場合は、オペレーティングシステムのCDをCD-ROMドライブに挿入し、インストレーションプロセスを開始します。

コマンドラインインタフェース

Windows/PC環境と端末/VT100環境をともにサポートするには、フルスクリーンメニュー方式ユーザインタフェースとコマンドラインインタフェースの両方が必要です。ページイン/ページアウトされるメニューでは全画面を再描画する必要があるため、フルスクリーンメニュー方式ユーティリティは、VT100インタフェースでは正しく表示されません。BIOSシリアルコンソールサポートを使用するサーバへのVT100互換シリアル接続では、コマンドラインインタフェース (CLI) のほうが高速で互換性の高いソリューションを提供するため、新しい一部のサーバにはこの機能が追加されています。

2つの基本的なコマンドSETおよびSHOWは、すべてのコマンドの基礎となります。また、各コマンドについてHELPにアクセスできます。EXITやQUITは、ユーティリティを終了するために使用します。

デュアルモードROMベースユーティリティ

ROMベースユーティリティは、一般には、2つのモードを切り替えて動作するため、非常に便利です。また、RBSUでは、コンソールモードの表示と設定の方法をユーザが設定できます。このモードは、内蔵ROMユーティリティをシリアルポート接続またはiLOを介してリモートで起動する前に設定します。モードは自動設定することもできます。詳細については「CLIモードの選択」を参照してください。

CLIモードの選択

新しい一部のサーバでは、ROM内蔵ユーティリティがCLIモードまたはフルスクリーンメニューベースモードのどちらで動作するかは、BIOSが自動的に決定します。[BIOSシリアルコンソール]オプションでVT100互換端末を使用する場合は、CLIモードが起動用に選択されます。BIOSシリアルコンソールが無効になっているかまたは使用されていない場合は、フルスクリーンメニューベースインタフェースが使用されます。また、図4-1に示すRBSUメニューで**[有効]**を選択することにより、常にCLIモードで動作するようにユーティリティを設定することができます。

表4-1: モード選択の値

CQHCLI EVの値	説明
0 = Auto	CLIモードを自動で決定します。
1 = Always (CLI mode)	CLIモードを常に有効にします。

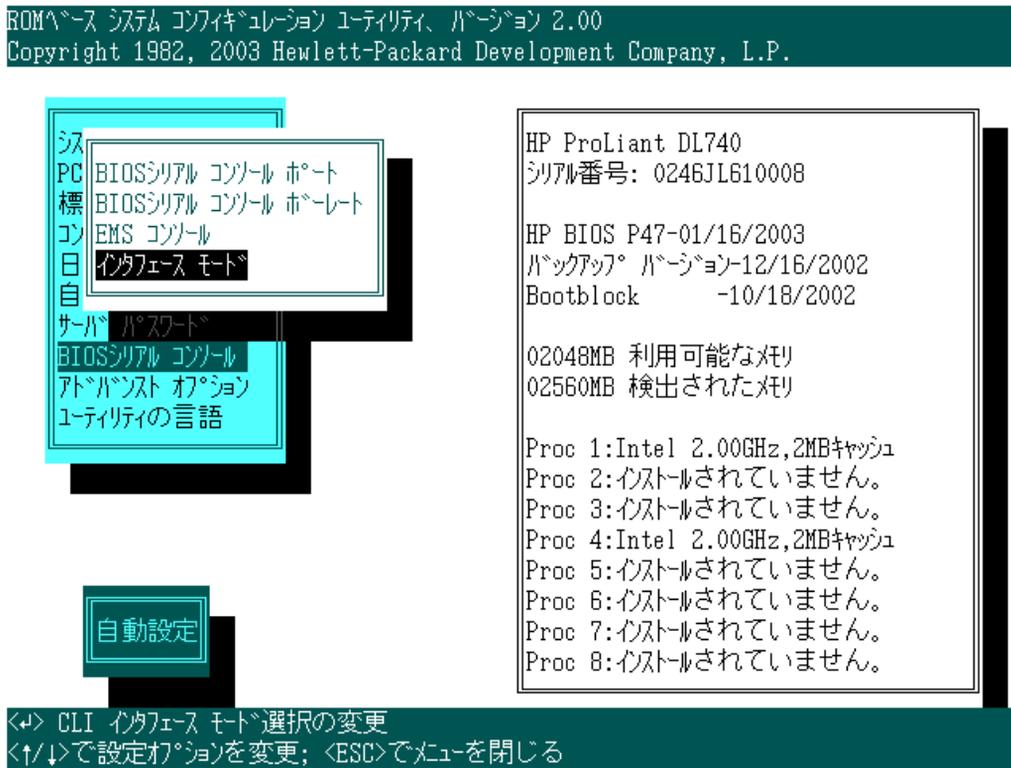


図4-1: BIOSインタフェース モードの選択画面

RBSUメイン メニューの[BIOSシリアル コンソール/EMSサポート]メニューを選択すると、[インタフェース モード]メニュー項目が表示されます。このメニュー項目は、CQHCLI EV値と同じ働きをし、[自動設定]と[有効]を切り替えます。

RBSU CLIコマンド

RBSUのCLIモードは、メニュー ベースのモードと同じ機能を提供する別のインタフェースです。

表4-2: RBSUのCLIコマンド

コマンド	使用法	説明
HELP	HELPまたはHELP <command>	サポートされているすべてのコマンドを表示するかまたは指定したコマンドの使用法と説明を表示します。
EXIT、QUIT	EXIT、QUIT	RBSUを終了して、システムをリセット（電源をいったん切って再投入）します。
SHOW CONFIG	SHOW CONFIG SHOW CONFIG <option>	SHOW CONFIGは、設定可能なすべての<option>を表示します。 SHOW CONFIG <option>は、指定された<option>の現在の設定と選択できる他のすべての設定を表示します。 SHOW CONFIG SCRIPTは、サーバの設定を再構築するために必要なスクリプトを表示します。
SET CONFIG	SET CONFIG <choice> <option>	設定オプションを、<choice>で指定する選択項目に設定します。<choice>には、そのオプションに対してSHOW CONFIGを発行したときに表示される選択項目番号を指定します。
SHOW SN	SHOW SN	現在のシリアル番号値を表示します。
SET SN	SET SN <serial #>	シリアル番号を、指定された値に設定します。
SHOW BOOT	SHOW BOOT	現在構成されているコントローラのブート順のリストを示します。
SET BOOT	SET BOOT <controller #>	新しいプライマリ ブート コントローラを設定して、新しいリストを表示します。プライマリ ブート コントローラは、SHOW BOOT コマンドの結果、表示されるリストのコントローラ番号で指定します。
SHOW IPL	SHOW IPL	優先順序どおりにIPLデバイスの現在の標準ブート順序デバイス リストを表示します。

続く

表4-2: RBSUのCLIコマンド (続き)

コマンド	使用法	説明
SET IPL	SET IPL [A:C: CD PXE] <new IPL Priority>	指定されたIPLデバイスの標準ブート順序を、指定された新しい優先番号に設定します。指定されるデバイスは、SHOW IPLによって表示される現在のIPLリストに示されているものでなければなりません。
SHOW PCI	SHOW PCI	すべてのPCIデバイスのリストとその現在のIRQ設定 (あるいは無効ステータス) を表示します。また、PCIデバイスで使用できるIRQのリストも示します。
SET PCI	SET PCI <device #> <IRQ>	選択されているPCIデバイスの新しいIRQ値 (1~15) を設定します。<#>には、SHOW PCIコマンドによって表示されるリストの中のPCIデバイス番号を指定します。PCIデバイスを無効にするには、<IRQ>値に0を指定します。
SHOW SYS	SHOW SYS	SMBIOS情報から提供されるシステムの概要を表示します。
SET PASSWORD POWERON	SET PASSWORD POWERON	電源投入時パスワードを設定します。パスワードは確認のために2回入力する必要があり、7文字以下でなければなりません。
SET PASSWORD ADMIN	SET PASSWORD ADMIN	管理者パスワードを設定します。パスワードは確認のために2回入力する必要があり、7文字以下でなければなりません。
SHOW DATE	SHOW DATE	日付を<mm/dd/yy>の形式で表示します。
SHOW TIME	SHOW TIME	時刻を<hh:mm>の形式で表示します。
SET DATE	SET DATE <mm/dd/yy>	指定した新しい日付に設定します。西暦の上2けたは省略されています。
SET TIME	SET TIME <hh:mm>	指定した新しい時刻に設定します。秒を示す値は、0に設定されています。
SHOW TEXT SERVER	SHOW TEXT SERVER	現在のサーバ情報を示すテキストの各文字列を表示します。

続く

表4-2: RBSUのCLIコマンド (続き)

コマンド	使用法	説明
SET TEXT SERVER	SET TEXT SERVER [N A P O] [1 2 3 4] <string>	指定されたサーバ情報を示す文字列を、 <string>で示される内容に設定します。 各記号には次の意味があります。 'N': サーバ名 (28) 'A': サーバの資産タグ (32) 'P': サーバのプライマリOS (42) 'O': サーバに関する他の情報 (28) 番号は、行番号です。
SHOW TEXT ADMIN	SHOW TEXT ADMIN	管理者の現在の連絡先情報を示すテキストの 各文字列を表示します。
SET TEXT ADMIN	SET TEXT ADMIN [N P G O] [1 2 3 4] <string>	<string>で指定された管理者の連絡先情報を 示す文字列を設定します。 各記号には次の意味があります。 'N': 管理者名 (28) 'P': 管理者の電話番号 (28) 'G': 管理者のポケットベル番号 (28) 'O': 管理者に関する他の情報 (28) 番号は、行番号です。
SHOW TEXT SERVICE	SHOW TEXT SERVICE	現在の保守サービス連絡先を示すテキストの 各文字列を表示します。
SET TEXT SERVICE	SET TEXT SERVICE [N P G O] [1 2 3 4] <string>	<X><#>で指定された保守サービス窓口の連 絡先情報を示す文字列を、<string>で示され た内容に設定します。 ここでXは次を示します。 'N': 保守サービス窓口の名前 (28) 'P': 保守サービス窓口の電話番号 (28) 'G': 保守サービス窓口のポケットベル番号 (28) 'O': 保守サービス窓口に関する他の情報 (28) 番号は、行番号です
SHOW TEXT IMD	SHOW TEXT IMD	現在のIMDカスタム テキストの各文字列を示 します。

続く

表4-2: RBSUのCLIコマンド (続き)

コマンド	使用法	説明
SET TEXT IMD	SET TEXT IMD [I M S] [1 2 3 4] <string>	<X><#>で指定されたIMDカスタム テキスト の文字列を、<string>で示された内容に設定 します。 各記号には次の意味があります。 'I': アイドル画面 (48) 'M': カスタム メニュー項目 (14) 'S': カスタム メニュー画面 (56) 番号は、行番号です。

システム情報の参照 (Inspect) のCLIコマンド

表4-3: システム情報の参照 (Inspect) 用CLIコマンド

コマンド	使用法	説明
HELP	HELPまたは HELP <command>	サポートされているすべてのコマンドまたは 指定されたコマンドの使用法と説明を表示し ます。
EXIT	EXIT	システム情報の参照 (Inspect) コーティリ ティを終了して再起動します。
QUIT	QUIT	システム情報の参照 (Inspect) コーティリ ティを終了して再起動します。
EXPORT	EXPORT	すべての情報をディスク ドライブAにテ キスト ファイル形式でエクスポートします。
SHOW CONFIG	SHOW CONFIG	RBSUのすべてのオプションと現在の設定を 表示します。
SHOW CMOS	SHOW CMOS	すべてのISA CMOSを表示します。
SHOW IML	SHOW IML	すべてのシステム イベントのログ記録を表示 します。
SHOW SMBIOS	SHOW SMBIOS	すべてのSMBIOS記録情報を表示します。
SHOW PCI	SHOW PCI	すべてのPCIデバイスとPCIヘッダの情報を見 ます。
SHOW EVS	SHOW EVS	すべてのシステムEVSを表示します。
SHOW MEM	SHOW MEM	システムのメモリ マップを表示します。

続く

表4-3: システム情報の参照 (Inspect) 用CLIコマンド (続き)

コマンド	使用法	説明
SHOW SYS	SHOW SYS	SMBIOS情報から提供されるシステムの概要を表示します。
SHOW BOOT	SHOW BOOT	プライマリ ブート コントローラを表示します。
SHOW ACC	SHOW ACC	プライマリ アレイ コントローラの設定情報を表示します。

システム メンテナンス用CLIコマンド

表4-4: システム メンテナンス用CLIコマンド

コマンド	使用法	説明
HELP	HELPまたはHELP <command>	サポートされているすべてのコマンドまたは指定されたコマンドの使用法と説明を表示します。
EXIT	EXIT	メニューを終了して、起動を続行します。
RBSU	RBSU	(CLIを備えた) RBSUユーティリティを実行します。
INSPECT	INSPECT	(CLIを備えた) システム情報の参照 (Inspect) ユーティリティを実行します。
PXE	PXE	PXEブートを試みます。
MEMDIAG	MEMDIAG	指定された診断ユーティリティを実行します (診断ユーティリティも、CLI出力を備えています)。
CPUDIAG	CPUDIAG	指定された診断ユーティリティを実行します (診断ユーティリティも、CLI出力を備えています)。
DISKDIAG	DISKDIAG	指定された診断ユーティリティを実行します (診断ユーティリティも、CLI出力を備えています)。

コマンド バッファリング サポート

CLIモード サポートは、コマンド ラインから入力された以前の5つのコマンドをバッファに格納します。これらのコマンドには、上向きおよび下向きの矢印キーを使用してアクセスできます。

他のCLIサポート

CLIモード サポートでは、画像出力を一画像で表示できない場合に、**-More-**プロンプトを表示し自動的に制御します。プロンプトは画面下部に表示され、ユーザの入力を待ちます。ユーザは、以下のキーを使用して、データの次のページにスクロールできます。

表4-5: 表示用スクロール キー

キー	機能
スペース	次のページにスクロールします。
Enter	次の行にスクロールします。
Q	表示を終了します。

RBSUによるコンフィギュレーション手順

はじめに

RBSUを使用してサーバを設定する方法は、2通りあります。方法によってそれぞれ手順が異なります。各方法を図A-1および図A-2で説明します。ここでは、手動で設定する方法とSmartStartソフトウェアを使用して設定する方法を紹介します。この情報は、技術的なもので、参照用にだけ提供されます。

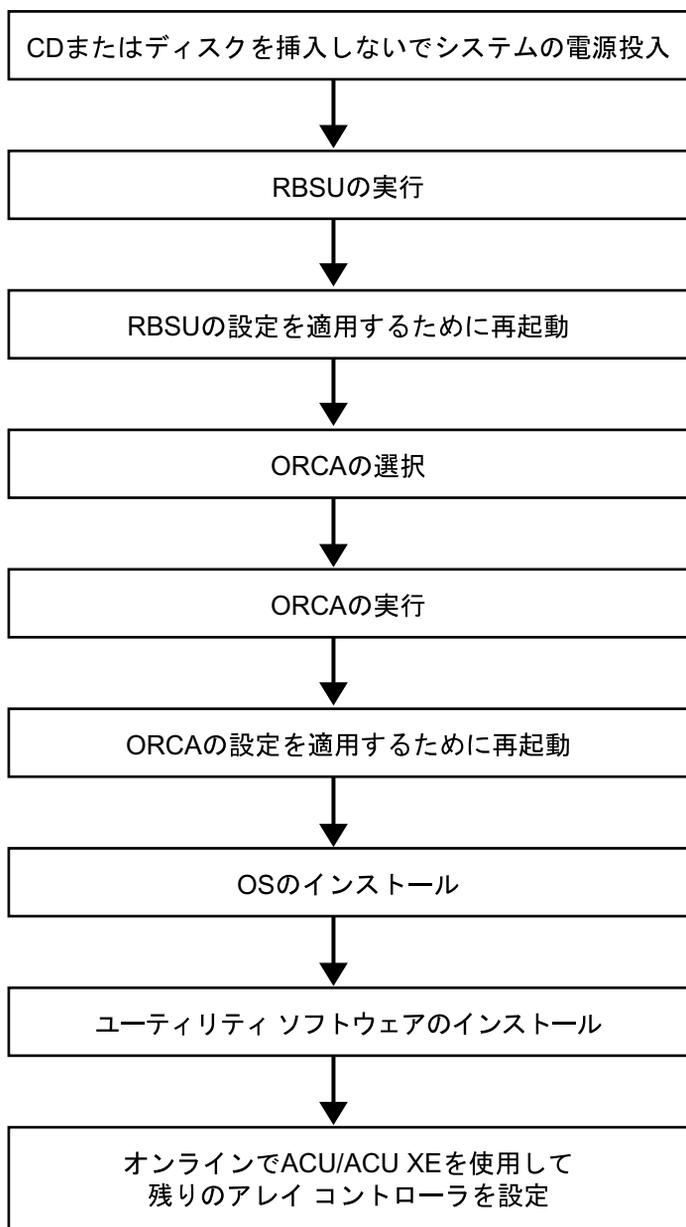
手動コンフィギュレーションの手順

重要: 64ビット サーバの場合、[Boot]メニューから[System Maintenance]、[ROM-Based Setup Utility]の順に選択してRBSUを実行してください。

注: 手動コンフィギュレーションの手順は、内蔵ATA RAID IDEコントローラを使用しているサーバには適用されません。手動コンフィギュレーションの手順は、内蔵のサーバ セットアップを使用しているサーバには必要ありません。内蔵のサーバ セットアップについては、「3 ROMベースの拡張機能」を参照してください。

SmartStartを使わずに、RBSUを使用してHP製サーバを設定することができます。サーバが設定されていない状態で起動する場合、**F9**キーを押すと32ビット サーバ用のRBSUが実行されるので、サーバを設定できます。RBSUを使用してサーバを設定した後の手順を以下に示します。

1. システムを再起動します。
2. **F8**キーを押してORCAを実行します。
3. プライマリ アレイ コントローラをORCAで設定した後、システムを再起動します。
4. オペレーティング システムをインストールし、必要なアプリケーションがあれば、すべてインストールします。
5. 残りのアレイ コントローラがあれば、アレイ コンフィギュレーション ユーティリティ (ACU) またはアレイ コンフィギュレーション ユーティリティXE (ACU XE) を使って設定します。



図A-1: 手動コンフィギュレーションの手順

スクリプトによるコンフィギュレーション手順

RBSUをSmartStart Scripting Toolkitとともに使用して、サーバを設定することができます。SmartStart Scripting Toolkitは、HPのWebサイト<http://www.compaq.com/smartstart/toolkit/>（英語）にあります。

Configuration Replicationユーティリティ

重要: Configuration Replicationユーティリティを使用できるのは、32ビットサーバだけです。

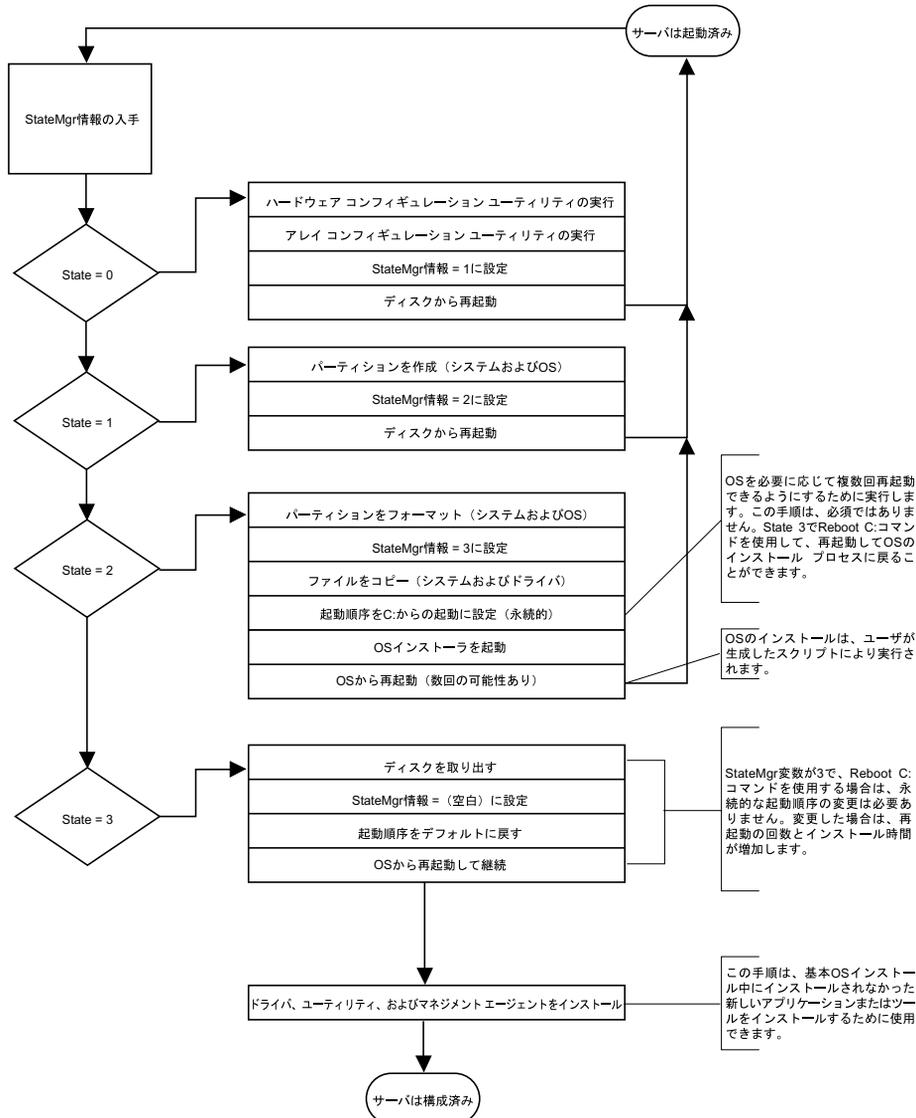
Configuration Replicationユーティリティ（ConRep）は、SmartStart Scripting Toolkitの一部として提供されるプログラムで、RBSUとともに使用することで、ProLiantサーバのハードウェアコンフィギュレーションを複製できます。このユーティリティは、スクリプトによるサーバのインストールの際に、「State = 0」の「**ハードウェア コンフィギュレーション ユーティリティの実行**」で実行されます。ConRepユーティリティは、システム環境変数を読み出してコンフィギュレーションを判定し、その結果を、編集可能なスクリプト ファイルに書き出します。このファイルは、同様のハードウェアおよびソフトウェア コンポーネントを持つ複数のサーバにインストールすることができます。詳しくはHPのWebサイト<http://www.compaq.com/manage/deployment.html>（英語）を参照してください。

Array Configuration Replicationユーティリティ

重要: 64ビットサーバではSmartStartを使用できないため、Array Configuration Replicationユーティリティを使用できるのは、32ビットサーバだけです。

Array Configuration Replicationユーティリティ（ACR）は、SmartStart Scripting Toolkitの一部として提供される複数ユーティリティで、RAIDアレイに対して使用します。ACRは、スクリプトによるサーバのインストールの際に、「State = 0」の「**アレイ コンフィギュレーション ユーティリティの実行**」で使用されます。ACRはホストアレイコントローラコンフィギュレーションユーティリティを複製して、編集可能なスクリプトファイルに書き出します。このファイルは、起動ディスクに収録して、他のサーバのインストールに使用することができます。

スクリプトによるコンフィギュレーション手順



図A-2: スクリプトによるコンフィギュレーション手順

3

32ビット サーバ、RBSUの
実行 1-1

6

64ビット サーバ、RBSUの
実行 1-3

A

Array Configuration Replication
ユーティリティ
(ACR) A-4

ASR、
高温シャットダウン 2-19
ASRステータス 2-17
ASRタイムアウト 2-18

B

BIOSシリアル コンソール 2-39

C

CLI 4-1
RBSU、コマンド 4-4
参照 (Inspect)、
コマンド 4-7
システム メンテナンス、
コマンド 4-8

スクロール キー 4-9
Configuration Replication
ユーティリティ
(ConRep) A-4
CPU修復済みに設定 2-33
CPU診断テスト 3-8

F

F1キー 2-30

H

HPのWebサイト xii

I

IDE EDD 3.0 2-35
IMDカスタム テキストの設
定 2-26
IPL (Initial Program Load)
デバイス、設定 2-14

M

MPSテーブル モード 2-28

N

NMIデバッグ ボタン 2-35
NUMLOCK電源投入時
ステータス 2-10

O

- Option ROM Configuration for
Arrays (ORCA) ユーティリ
ティ、自動
コンフィギュレーション
プロセス 3-10
- OSの選択 2-5

P

- PCIデバイス 2-13
- PCIホットプラグ 2-29
 - 予約設定 2-5
- POST F1プロンプト 2-30
- POSTエラー 3-13
- POSTスピードアップ 2-29

R

- RBSU
 - 消去オプション 3-3
- RBSU、コンフィギュ
レーション手順 A-4
- RBSUの実行
 - 32ビット サーバ 1-2
 - 64ビット サーバ 1-3
- ROMベース ユーティリティ、
CLI 4-1

S

- System Maintenance Menu
 - アクセスする 3-2
 - オプション 3-2
 - 説明 3-1

あ

- アドバンスト オプション 2-27
- アドバンスド メモリ保護 2-11

う

- ウェイク オンLAN 2-34

お

- オプション
 - NUMLOCK電源投入時
ステータス 2-10
 - シリアル番号 2-6
 - ディスクett書込み
制御 2-10
 - ディスクettブート
制御 2-10
 - 内蔵COMポートA 2-7
 - 内蔵COMポートB 2-8
 - 内蔵LPTポート 2-9
 - 内蔵NICポートPXEサポー
ト 2-10
 - 内蔵ディスクett
コントローラ 2-9
- オペレーティング システムの
インストール 3-13

か

- 概要 1-1
- カスタムPOSTメッセージ 2-36
- 仮想フロッピー ディスク 3-4
- 管理者パスワードの設定 2-20

き

- キーボード、ロック 2-21
- 起動オプション画面 3-12
- 起動ディスク診断テスト 3-9

く

- クイックロック 2-21

け

言語 2-40

こ

高温シャットダウン 2-19

コマンドライン

インタフェース

「CLI」を参照

コントローラのブート順 2-15

コンフィギュレーション

設定 2-1

コンフィギュレーション手順

手動コンフィギュレ

ションの手順 A-2

スクリプトによる

コンフィギュレ

ション手順 A-4

はじめに A-1

さ

サーバパスワード 2-19

管理者パスワードの

設定 2-20

電源投入時パスワードの

設定 2-20

ネットワークサーバ

モード 2-20

サーバ、I/O 2-4

サーバ設定情報テキスト 2-23

サーバの資産タグ&

IMDテキスト 2-22

し

システム オプション 2-4

OSの選択 2-5

システム コンフィギュ

レーション、消去 3-3

システム管理者情報の

設定 2-24

システム固有のテキスト 2-22

システム情報の参照 (Inspect)

ユーティリティ 3-5

自動コンフィギュレーション

プロセス 3-10

自動サーバ復旧 2-17、

「ASR」を参照

シャットダウン、サーバ 2-19

消去オプション 3-3

シリアル番号 2-6

シングルカードミラーリング

メモリ 2-12

診断ユーティリティ 3-6

テスト オプション 3-6

す

スクリプトによるコンフィギュ

レーション手順 A-4

せ

セカンダリIDEチャンネル

サポート 2-38

設定

PCIデバイス 2-13

アドバンスト

オプション 2-27

シリアル番号 2-6

内蔵シリアルポート 2-7、

2-8

ネットワークサーバ

モード 2-20

選択

プライマリブート

コントローラ 2-15

プライマリOS 2-5

た

端末エミュレーション 2-39

て

ディスクет ブート制御 2-10

ディスクет書込み制御 2-10

デュアルカードミラーリング

メモリ 2-12

電源投入時セルフテスト

(POST)

実行 3-12

電源投入時パスワードの

設定 2-20

な

内蔵COMポートA 2-7

内蔵COMポートB 2-8

内蔵LPTポート 2-9

内蔵NICポートPXEサポー

ト 2-10

内蔵ディスクет

コントローラ 2-9

ね

ネットワーク サーバ

モード 2-20

は

パスワード 2-19

ひ

日付と時刻 2-16

標準ECCサポート 2-11

標準ブート順序 (IPL) 2-14

ふ

不揮発性メモリの削除 2-32

プロセッサ ハイパー

スレディング 2-37

ほ

保守サービス連絡先の

設定 2-25

ホットプラグ リソース 2-29

本文中の記号 xi

ま

マルチ プロセッサ (MP)

設定 2-5

み

ミラーリング メモリ

シングルカード 2-12

デュアルカード 2-12

め

メイン メニュー

BIOSシリアル

コンソール 2-39

システム オプション 2-4

メモリ診断テスト 3-7

ゆ

ユーティリティの言語 2-40

り

リセット

反応のないサーバ 2-18

不揮発性メモリ 2-32

リダンダントROMの選択 2-31